



富山市立小・中学校 再編原案(案)

令和3年10月15日

学校再編推進課

目次



検討のプロセス 「市立小・中学校再編計画の考え方について」に基づく	P 2
検討のプロセス 再編原案の選定／再編原案リストの解説	P 3
原案シート解説	P 4
再編原案 富山中央地域	P 5
富山北部地域	P12
和合地域	P19
呉羽地域	P27
富山西部地域	P33
富山東部地域	P37
大沢野・細入地域	P41
大山地域	P50
八尾・山田地域	P57
婦中地域	P67

検討のプロセス(「市立小・中学校再編計画の考え方について」に基づく)



再編対象校の選定

令和3年度時点において、

- ・ 複式学級が存在する学校⇒小学校9校
 - ・ 全学年が単学級である学校⇒小学校16校、中学校2校
- } 計 27 校

再編の組み合わせの検討

組み合わせ方法	検討案数
①再編対象校と校区が隣接する同一地域生活圏内の学校との再編を検討	小学校:59案
(①で適正規模とならない場合) ②同一地域生活圏内において3校以上での再編を検討	小学校:33案
(同一地域生活圏内での再編が困難な場合) ③地域生活圏をまたいだ再編を検討	小学校:4案 中学校:2案
計	小学校:96案 中学校:2案

(①～③と併せて考えるもの)

中学校との併設を念頭に置いた再編案を検討(次のいずれかに該当する場合)

- ・ 同一地域生活圏内において、複数校の組み合わせによって新たな再編校は適正規模となるが、一部小規模校が残置する場合
- ・ 同一地域生活圏内に中学校が一つのみの場合

①～③の内
小学校:10案

検討のプロセス 再編原案の選定／再編原案リストの解説



再編原案の選定

前述のプロセスから得た「再編の組み合わせ」(98案: 小学校96案、中学校2案)のうち、適正規模校は再編対象校とはしないことを前提とし、以下の条件を基本として再編原案の選定を行った。

【選定条件】

- ・再編後、長期的(R7～R22)には適正規模となる
(適正規模に向けて段階的に行う統合(一次統合)を含む)
- ・再編後、長期的に必要な教室数に対して、学校の保有教室数が充足している
- ・再編後、同一地域生活圏内に再編対象校が残置しない
- ・再編後の児童の中学校の進学先といった環境変化に配慮する

選定した再編原案(諮問)

対象	再編原案数
1. 小学校	34案
2. 中学校	2案

「再編原案リスト」記載項目

再編後の学校規模・学級数を示しています。
小学校は1学級35人、中学校は1学級40人で算出しています。

再編後の教室の過不足状況を実数で示しています。

再編対象校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について、再編先学校に通学する場合の通学距離が3 km 超となる児童生徒の割合及び人数を示しています。

再編の方法を示しています。
以下の方法があります。
・統合、一次統合、最終統合、通学区域変更

地域生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法				
	再編対象校 (複式学級がある学校) (全学年単学級の学校)	再編対象校との組み合わせを検討する学校	再編先学校	学校規模(学級数)				再編先学校の教室充足状況			通学距離			
				R7	R12	R17	R22					R7	R12	R17
富山中央	柳町小学校	中央小学校	現 中央小学校	適正(17)	適正(18)	適正(13)	適正(12)	1	0	5	6	2% 3人	富山中央-1	統合
	柳町小学校	奥田小学校	現 奥田小学校	大(19)	適正(18)	適正(14)	適正(12)	▲4	▲3	1	3	1% 2人	富山中央-2	
	柳町小学校(奥田小校区)	奥田小学校	現 奥田小学校	適正(17)	適正(13)	適正(12)	適正(12)	▲2	2	3	3	0% 0人	富山中央-3(1)	通学区域変更
	柳町小学校(東部小校区)	東部小学校	現 東部小学校	適正(14)	適正(12)	適正(12)	適正(12)	2	4	4	4	0% 0人	富山中央-3(2)	

原案シート解説



各項目の説明

再編の方法を示しています。
以下の方法があります。
・統合 ・一次統合 ・最終統合 ・通学区変更

赤文字は児童生徒数の合計を示しています。
黒文字はその内訳を現在の学校ごとに示しています。

将来の児童生徒数は、過去5年分の人口データに基づき、実績人口の動向から将来人口を推計する方法（コーホート変化率法）によって、校区別・各歳別に出ています。



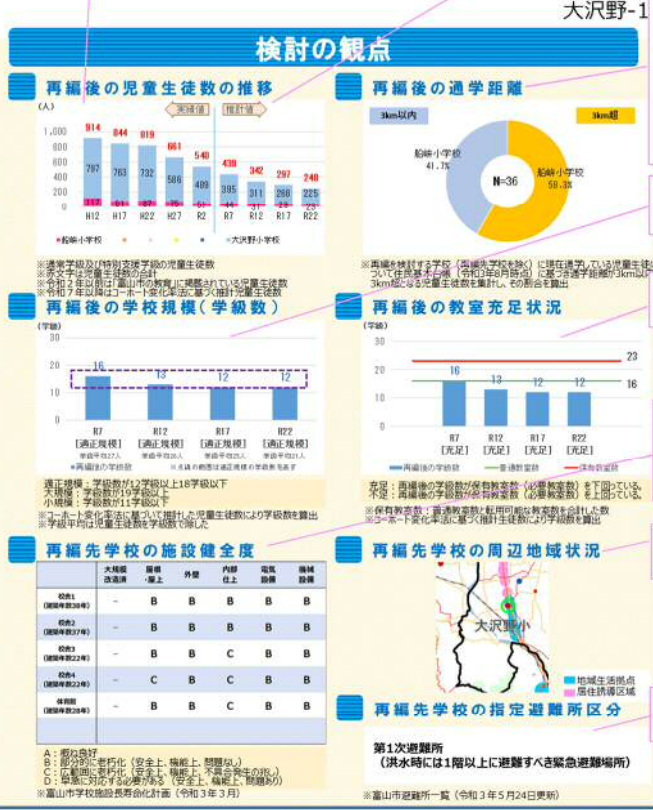
※〔 〕内は進学先の中学校を示しています。
※〔 〕内は学校種別
※再編を検討する校区の範囲は「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)。(3)及び(4)に示す
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通学学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通学学級の学級数(「富山市の教育」)



(参考) 再編案案検討のプロセス (「市立小・中学校再編の考え方」より抜粋)

4(1) 再編対象校の選定
再編の対象となる学校は、早期に適正化を検討する学校規模を定めた基本方針に基づき、再編が先行している水橋地区を除いた、
① 複式学級が存在する学校(小学校 9校)
② 全学年が単学級である学校(小学校 16校、中学校 2校)とし、選定時点を令和3年度とする。

4(2) 再編を考える範囲
再編を考える範囲は、地域としての歴史的つながりや一体性、またまとまりがあり、市民にもわかりやすい地域区分であり、本市の総合計画や都市マスタープランなど、まちづくりに関する他の計画との整合も図られることから、総合計画や都市マスタープランなどで設定されている 14 地域生活圏とする。



再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住居基本台帳(令和3年8月時点)に基づき再編先学校へ通学する場合の通学距離を計測し、通学距離が3km以内、あるいは3km超となる児童生徒数で、それぞれ集計した割合を示しています。

再編後の学級数が点線の枠内であれば適正規模となります。

再編後の学級数が保有教室数を下回っていれば、教室数は充足しています。

富山市学校施設寿命化計画による健全度(大規模改修実施状況、校舎・体育館の安全性・機能性等に関する指標)を示しています。

再編先学校周辺の地域生活拠点及び居住誘導区域の指定状況を示しています。

再編先学校の避難所の指定区分及び洪水時に避難すべき階数を示しています。

コメント

【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模となる。
【必要教室数】教室数は充足している。
【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。農地法第5条第4の規定に基づく協議が必要となる可能性がある。

検討の観点から得られた評価及びその他考慮すべき事項等を示しています。

4(3) 再編の組み合わせの検討
同一の地域生活圏内において、まずは校区が隣接する学校で適正規模となるかを検討し、適正規模とならない場合は3校以上での再編を検討する。また、同一地域生活圏内での再編が困難な場合は、地域生活圏をまたいで再編を検討する。なお、新たな再編校の設置にあたっては、原則既存校舎の活用を検討するものとする。

4(4) 小学校と中学校の併設の検討
同一の地域生活圏内の小学校で、次のような場合には、中学校との併設も念頭に、再編案を検討する。
① 複数校の組み合わせによって新たな再編校は適正規模校となるが、一部小規模校が残置する場合
② 同一地域生活圏内に中学校が一つの場合



富山中央地域

富山中央地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 富山中央地域の再編対象校は柳町小である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。
- (3) 中学校進学先等児童の環境変化を考慮し通学区域の変更を検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (8校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
芝園	3	100	4	112	3	95	3	106	3	102	3	102	19	617
西田地方	2	53	2	54	2	49	2	65	2	52	1	39	11	312
中央	2	69	2	62	2	53	2	72	2	74	2	65	12	395
柳町	1	32	1	20	1	23	1	31	1	19	1	32	6	157
奥田	3	85	2	67	3	76	3	86	2	75	2	79	15	468
奥田北	2	66	3	77	2	65	2	58	2	68	2	66	13	400
堀川	3	88	4	112	3	103	3	99	3	103	3	101	19	606
光陽	3	80	2	68	3	82	3	80	3	97	3	90	17	497

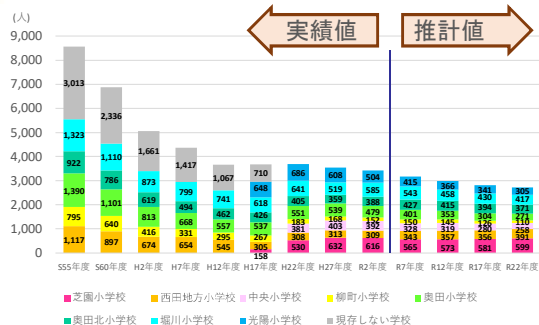
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (5校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
芝園	4	139	4	131	4	145	12	415
堀川	8	297	9	349	9	348	26	994
南部	5	187	5	178	5	174	15	539
奥田	6	214	6	218	6	216	18	648
大泉	1	43	2	47	2	82	5	172

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

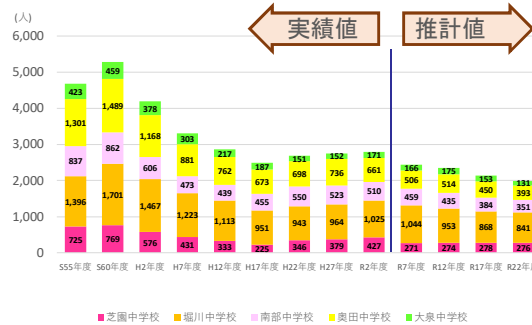
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

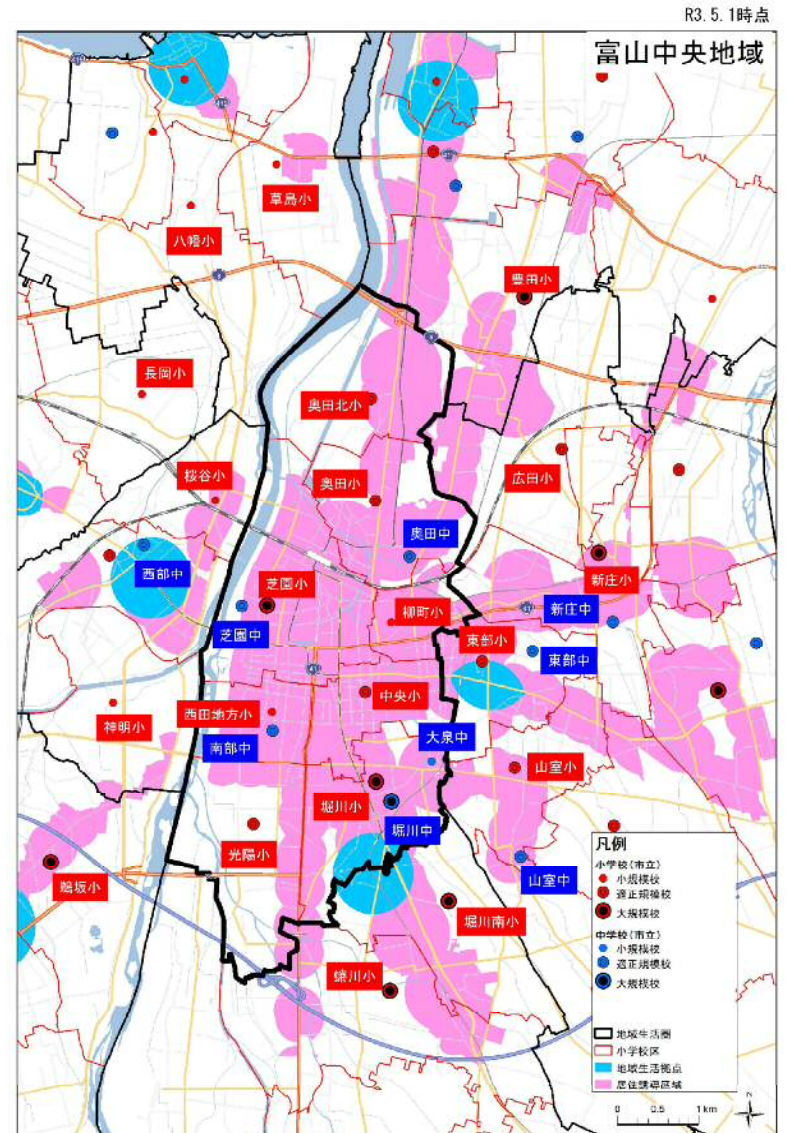


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



富山中央地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：芝園小学校、西田地方小学校、中央小学校、柳町小学校、奥田小学校、奥田北小学校、堀川小学校、光陽小学校

中学校：芝園中学校、堀川中学校、南部中学校、奥田中学校、大泉中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法					
	再編対象校 (複式学級がある学校) (全学年単学級の学校)	再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況			通学 距離				
				R7	R12	R17	R22	R7			R12	R17	R22	R3	
富山 中央	柳町小学校	中央小学校	現 中央小学校	適正 (17)	適正 (18)	適正 (13)	適正 (12)	1	0	5	6	2%	3人	富山中央-1	統合
	柳町小学校	奥田小学校	現 奥田小学校	大 (19)	適正 (18)	適正 (14)	適正 (12)	▲ 4	▲ 3	1	3	1%	2人		
	柳町小学校(奥田小校区)	奥田小学校	現 奥田小学校	適正 (17)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 2	2	3	3	0%	0人	富山中央-3(1)	通学区変更
	柳町小学校(東部小校区)	東部小学校	現 東部小学校	適正 (14)	適正 (12)	適正 (12)	適正 (12)	2	4	4	4	0%	0人	富山中央-3(2)	

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 柳町小学校【東部中、奥田中】
児童生徒数：157人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

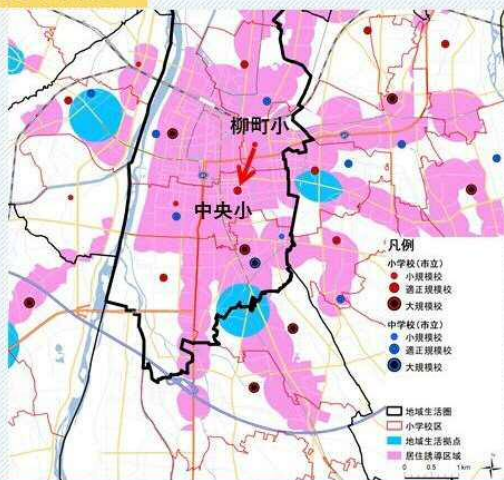
- 中央小学校【大泉中、南部中】
児童生徒数：395人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

現 中央小学校【大泉中、南部中、東部中、奥田中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え」(1) (3) R1 (4) に基づく
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変換法に基づき推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



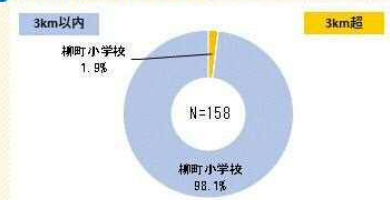
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変換法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模改修済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎・体育館(建築年数14年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生のおそれ)
 D：緊急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住居基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変換法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
- 【その他】進学先の中学校は4校となる。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 柳町小学校【東部中、奥田中】
児童生徒数：157人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

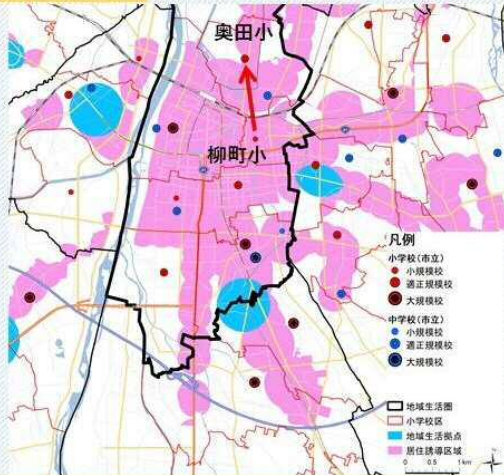
- 奥田小学校【奥田中】
児童生徒数：468人
学級数：15学級(適正規模校)

再編先学校

現 奥田小学校【東部中、奥田中】

※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方(1)」、「(3)」及び「(4)」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



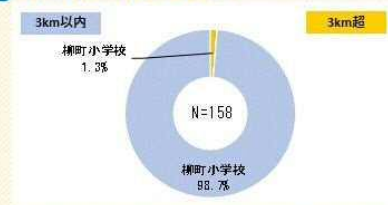
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



※再編後の学級数
 ※点線の範囲は適正規模校の学級数を表す
 適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改修済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数50年)	○	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数45年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数32年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
 D：緊急に対処する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

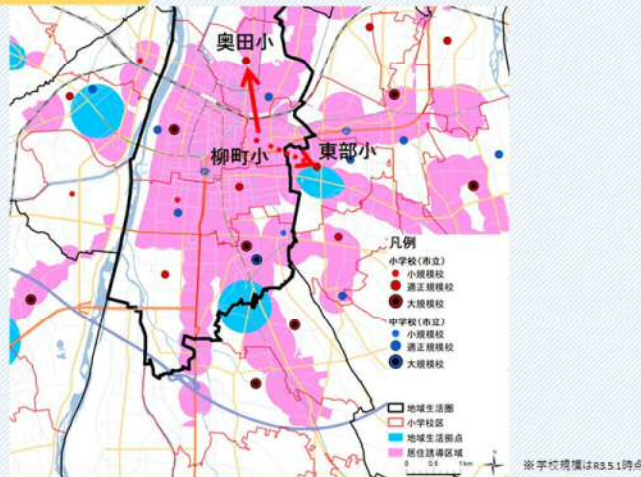
- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は大規模校となるが、その後令和12、17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】令和7、12年は教室数が不足しているが、令和17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
- 【その他】柳町小学校の一部が東部中学校へ進学する。

再編を検討する学校の概況



※()内は通学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考案方針(1)」、「(3)」及び「(4)」に基づく
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「1学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)
※柳町小学校(奥田小学校区に通学区域を変更)については、令和3年8月時点の住民基本台帳に基づき算出。学級数は不要であるため、割り出していない。

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建設年数50年)	○	A	A	A	A	A
校舎2 (建設年数45年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建設年数32年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対処する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒は存在しない。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】令和7年は教室数が不足しているが、令和12、17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。

富山中央地域

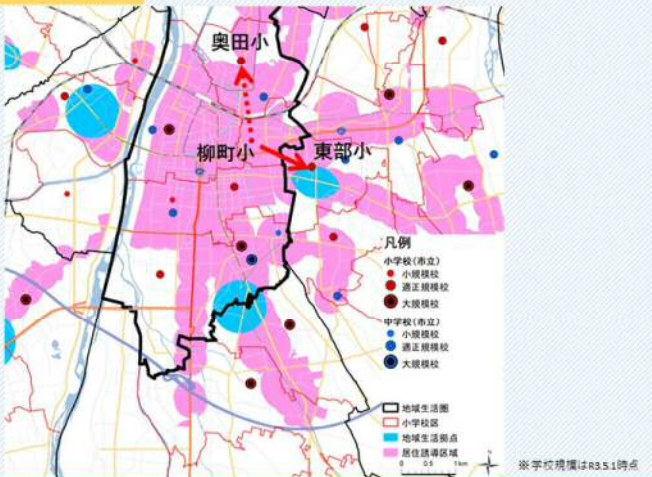
通学区域変更 ②

再編を検討する学校の概況

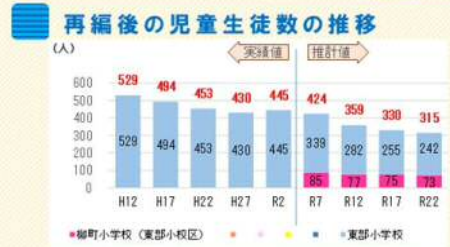


※()内は通学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考案方(1)」、「(3)」及び「(4)」に基づく
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)
※柳町小学校(東部小校区に通学区域を変更)については、令和3年8月時点の住民基本台帳に基づき算出。学級数は不要であるため、割出していない。

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数



※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数5年)	-	A	A	A	A	A
体育館(建築年数29年)	○	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出



※保育教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒は存在しない。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点内及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。



富山北部地域

富山北部地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 富山北部地域の再編対象校は岩瀬小、針原小、浜黒崎小である。
- (2) いずれの再編原案においても概ね適正規模を確保できる。
- (3) 中学校進学先等児童の環境変化を考慮し通学区域の変更を検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (6校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
岩瀬	1	13	1	14	1	17	1	18	1	34	1	10	6	106
針原	1	23	1	23	1	18	1	20	1	19	1	31	6	134
浜黒崎	1	11	1	15	1	19	1	13	1	18	1	15	6	91
大広田	2	56	2	54	2	63	2	63	2	57	2	55	12	348
豊田	4	120	4	142	4	132	4	140	3	117	4	134	23	785
教浦	2	49	2	42	2	49	2	41	2	46	2	45	12	272

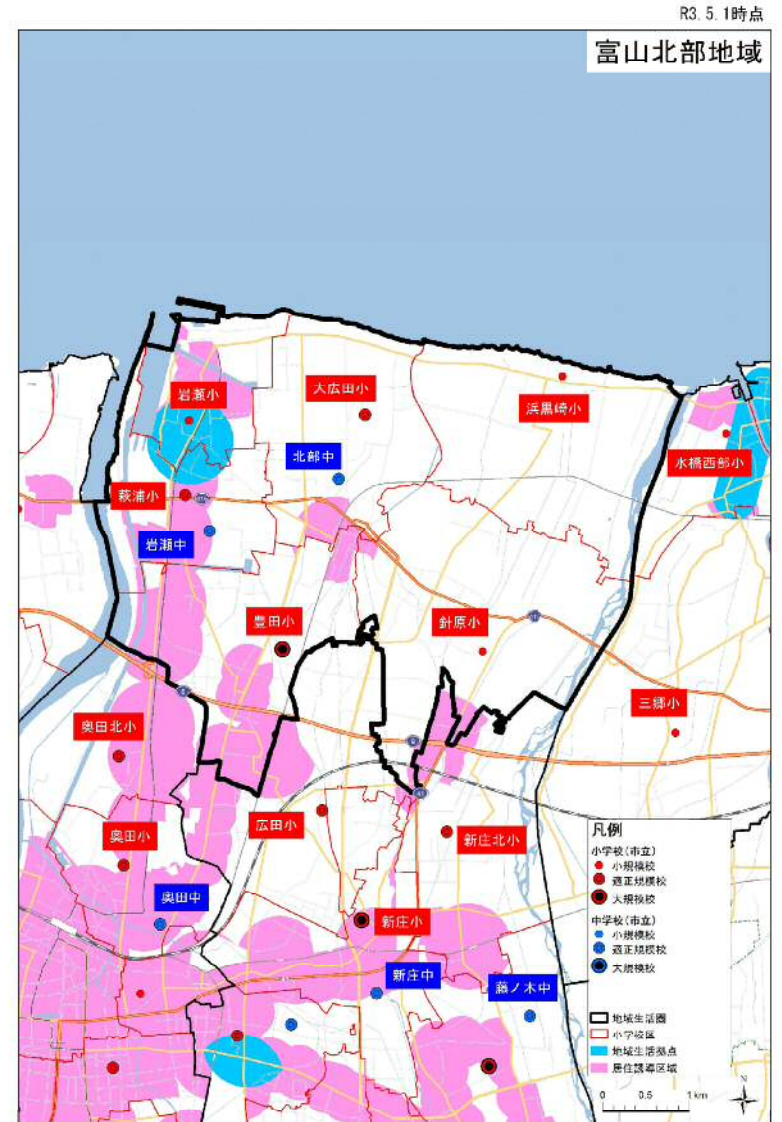
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (2校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
北部	4	136	4	162	5	176	13	474
岩瀬	4	143	3	105	3	101	10	349

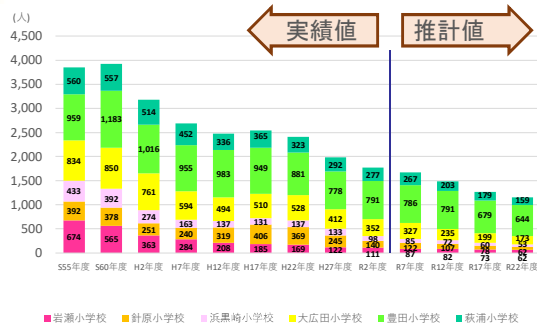
※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

学校位置図

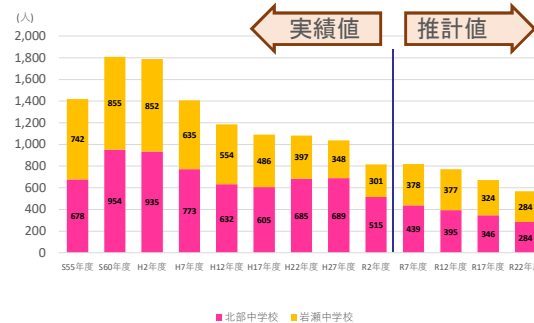


小学校児童数推移



出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



富山北部地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：岩瀬小学校、針原小学校、浜黒崎小学校、大広田小学校、豊田小学校、萩浦小学校
 中学校：北部中学校、岩瀬中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法						
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況		通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22			R7	R12		R17	R22	R3
富山 北部	岩瀬小学校		萩浦小学校	現 萩浦小学校	適正 (12)	適正 (12)	適正 (12)	小 (10)	1	1	1	3	3%	3人	富山北部-1	統合
	針原小学校、浜黒崎小学校		大広田小学校	現 大広田小学校	適正 (18)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	1	6	7	7	56%	128人	富山北部-2	
	針原小学校(新庄北小校区)		新庄北小学校	現 新庄北小学校	大 (21)	大 (22)	大 (20)	適正 (18)	7	6	8	10	0%	0人	富山北部-3(1)	通学区変更
	針原小学校(大広田小校区)、 浜黒崎小学校		大広田小学校	現 大広田小学校	適正 (18)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	1	6	7	7	50%	99人	富山北部-3(2)	

再編を検討する学校の概況



※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学級規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づき推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改修済	屋根・壁土	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数43年)	○	A	B	A	A	A
体育館(建築年数31年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に劣化(安全上、機能上、児童生徒の生活)
D：自費に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を下回っている。
不足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を上回っている。
※保育教室数：普通教室数に転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17年は適正規模校となるが、令和22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 針原小学校【新庄中、北部中】
児童生徒数：134人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 浜黒崎小学校【北部中】
児童生徒数：91人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

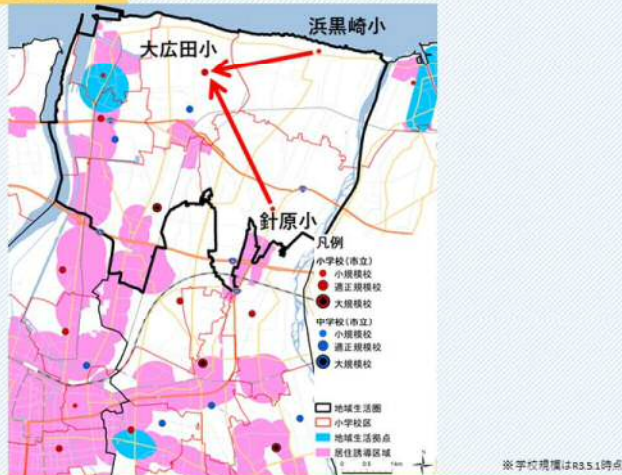
- 大広田小学校【北部中】
児童生徒数：348人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

現 大広田小学校【新庄中、北部中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)。(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数16年)	-	A	A	A	A	A
体育館(建築年数16年)	-	A	A	A	A	A

A: 概ね良好
 B: 部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C: 広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
 D: 早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。
- 【その他】針原小学校の一部が新庄中学校へ進学する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

●針原小学校〔新庄中〕
(新庄北小学校区に通学区域を変更)
児童生徒数：29人
学級数：-学級



再編対象校との組み合わせを検討する学校

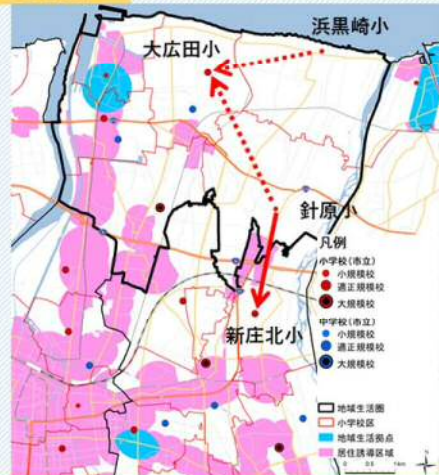
●新庄北小学校〔新庄中〕
児童生徒数：557人
学級数：18学級(適正規模校)

再編先学校

現 新庄北小学校〔新庄中〕

※〔 〕内は通学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、「(3)」及び「(4)」に基づき
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)
※針原小学校(新庄北小学校区に通学区域を変更)については、令和3年8月時点の住民基本台帳に基づき算出。学級数は不要であるため、割り出していない。

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

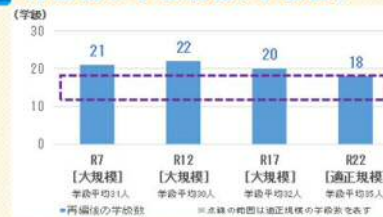
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数12年)	-	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数12年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数12年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生のおそれ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒は存在しない。
- 【学校規模】令和7、12、17年は大規模校となるが、その後令和22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 針原小学校【北部中】
(大広田小校区に通学区域を変更)
児童生徒数：105人
学級数：-学級
- 浜黒崎小学校【北部中】
児童生徒数：91人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

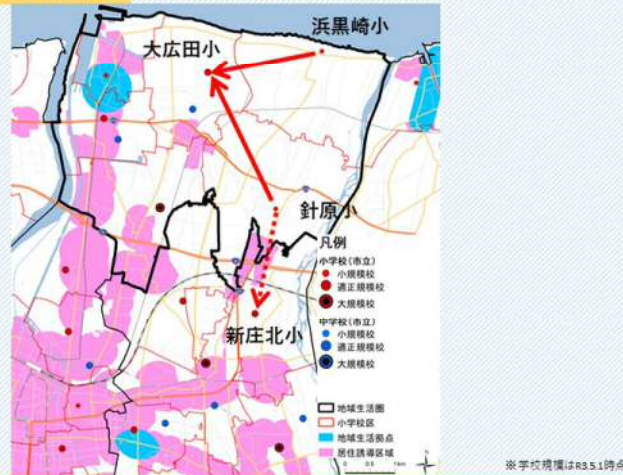
- 大広田小学校【北部中】
児童生徒数：348人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

現 大広田小学校【北部中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づき
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)
※針原小学校(大広田小校区に通学区域を変更)については、令和3年8月時点の住民基本台帳に基づき算出。学級数は不要であるため、割り出していない。

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤文字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



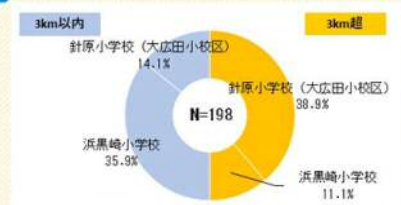
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数16年)	-	A	A	A	A	A
体育館(建築年数16年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。



和合地域

和合地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 和合地域の再編対象校は四方小、八幡小、草島小、倉垣小である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。
- (3) 既存校を活用した場合いずれも教室不足（要増築）となり、同一地域生活圏内に中学校が1つのため、和合中学校に小学校を併設する。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
四方	1	19	1	22	1	16	1	24	1	24	1	30	6	135
八幡	1	15	1	5	1	20	1	10	1	15	1	13	6	78
草島	1	16	1	18	1	20	1	17	1	23	1	22	6	116
倉垣	1	34	1	27	1	25	1	32	1	27	1	30	6	175

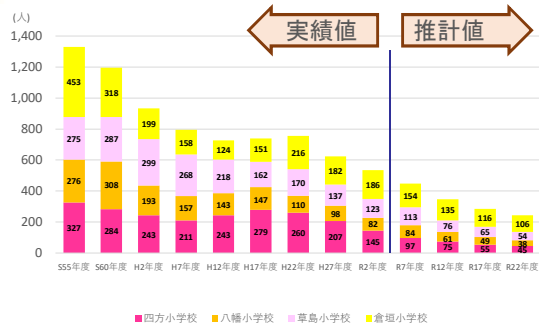
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
和合	3	114	3	113	3	94	9	321

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

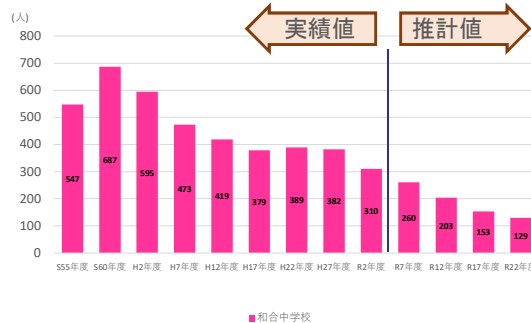
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

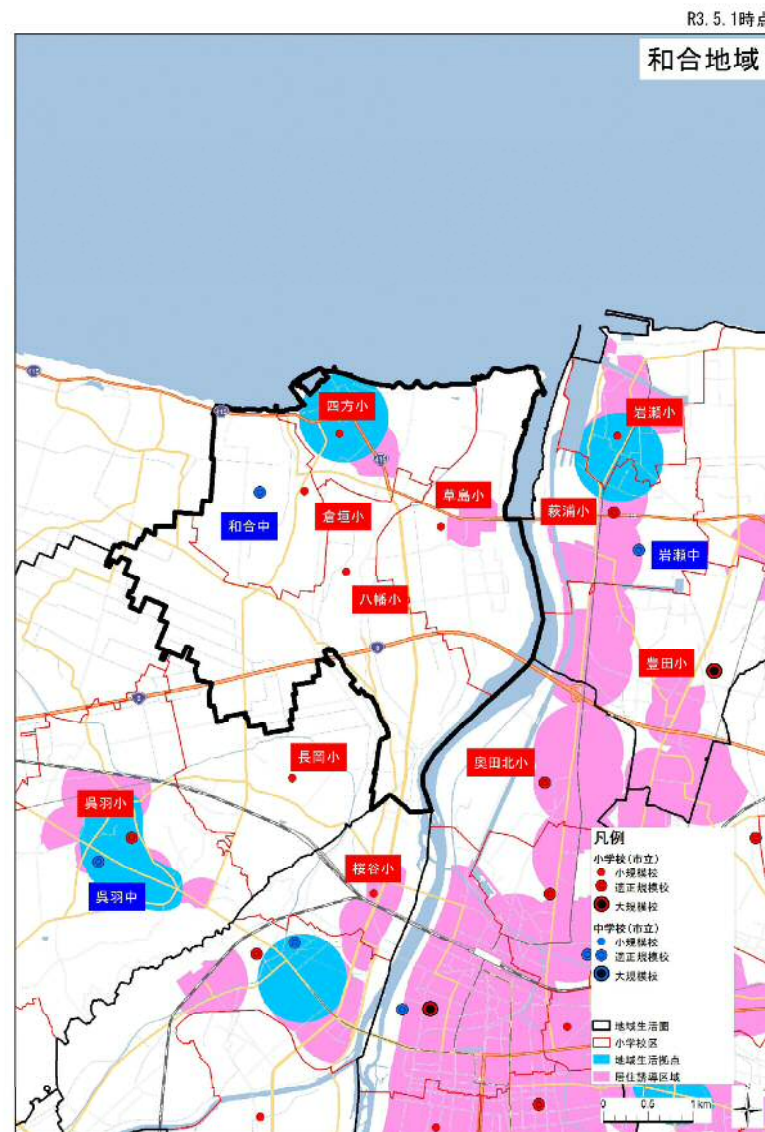


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



和合地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》
 小学校：四方小学校、八幡小学校、草島小学校、倉垣小学校
 中学校：和合中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法						
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況	通学 距離				
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22					R3			
和合	四方小学校、八幡小学校、 草島小学校、倉垣小学校			和合中学校併設小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	-	-	-	-	10%	48人	和合-1	統合
	四方小学校、八幡小学校、 草島小学校、倉垣小学校			現 四方小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 6	▲ 3	▲ 2	▲ 2	8%	30人	和合-2	
	四方小学校、八幡小学校、 草島小学校、倉垣小学校			現 八幡小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 9	▲ 6	▲ 5	▲ 5	0%	2人	和合-3	
	四方小学校、八幡小学校、 草島小学校、倉垣小学校			現 草島小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 7	▲ 4	▲ 3	▲ 3	3%	12人	和合-4	
	四方小学校、八幡小学校、 草島小学校、倉垣小学校			現 倉垣小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 8	▲ 5	▲ 4	▲ 4	10%	33人	和合-5	

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 四方小学校〔和合中〕
児童生徒数：135人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 八幡小学校〔和合中〕
児童生徒数：78人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 草島小学校〔和合中〕
児童生徒数：116人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 倉垣小学校〔和合中〕
児童生徒数：175人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



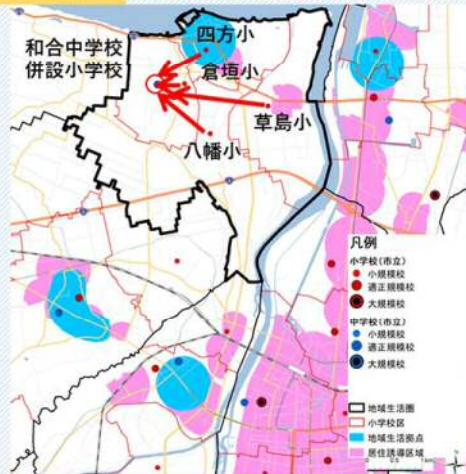
再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 和合中学校併設小学校〔和合中〕

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生のおそれ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第2次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。市街化調整区域内での建築行為、建築を伴う敷地拡張、用途変更する場合、都計法の許可が必要となる可能性が高い。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 四方小学校〔和合中〕
児童生徒数：135人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 八幡小学校〔和合中〕
児童生徒数：78人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 草島小学校〔和合中〕
児童生徒数：116人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 倉垣小学校〔和合中〕
児童生徒数：175人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 四方小学校〔和合中〕

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは市立小・中学校再編計画の考え(4.(1)。(3)及び(4))に基づく
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

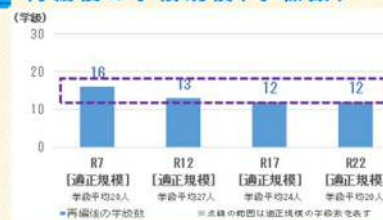
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改修済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数33年)	-	B	D	B	B	B
体育館(建築年数33年)	-	B	B	B	B	B

A: 概ね良好
B: 部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C: 広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D: 早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模となる。
- 【必要教室数】教室数は不足しているため、増築等の対応が必要となる。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点内及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 四方小学校〔和合中〕
児童生徒数：135人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 草島小学校〔和合中〕
児童生徒数：116人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 八幡小学校〔和合中〕
児童生徒数：78人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 倉垣小学校〔和合中〕
児童生徒数：175人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 八幡小学校〔和合中〕

※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学級規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づき
※児童生徒数は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、(学級数)は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(『富山市の教育』)
※(児童生徒数)は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、(学級数)は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(『富山市の教育』)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は『富山市の教育』に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づき推計児童生徒数

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模(学級数)



※再編後の学級数
※左側の範囲は適正規模の学級数を表す
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
※保有教室数：普通教室数(転用可能な教室数を含めた数)
※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改修済	屋根 ・壁土	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数50年)	○	A	B	B	B	B
校舎2 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数8年)	—	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に劣化(安全上、機能上、大規模修繕の必要あり)
D：急激に劣化する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は不足しているため、増築等の対応が必要となる。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。市街化調整区域内での建築行為、建築を伴う敷地拡張、用途変更する場合、都計法の許可が必要となる可能性が高い。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 四方小学校〔和合中〕
児童生徒数：135人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 八幡小学校〔和合中〕
児童生徒数：78人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 草島小学校〔和合中〕
児童生徒数：116人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 倉垣小学校〔和合中〕
児童生徒数：175人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



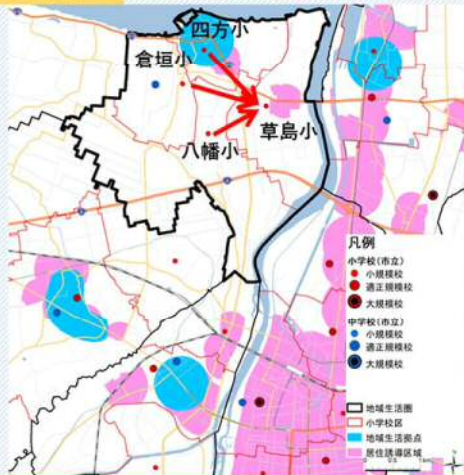
再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 草島小学校〔和合中〕

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



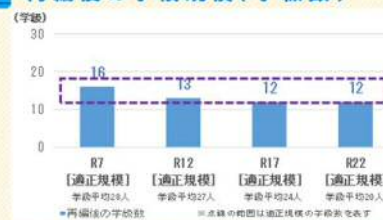
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤文字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数29年)	-	B	C	B	B	B
体育館(建築年数33年)	-	B	C	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は不足しているため、増築等の対応が必要となる。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正計画)付近に位置する。市街化調整区域内での建築行為、建築を伴う敷地拡張、用途変更する場合、都計法の許可が必要となる可能性が高い。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 四方小学校〔和合中〕
児童生徒数：135人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 八幡小学校〔和合中〕
児童生徒数：78人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 草島小学校〔和合中〕
児童生徒数：116人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 倉垣小学校〔和合中〕
児童生徒数：175人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



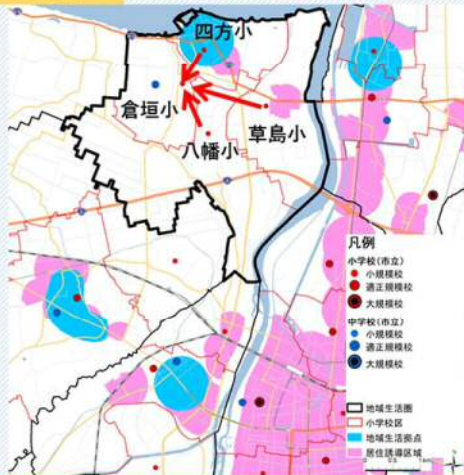
再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 倉垣小学校〔和合中〕

※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

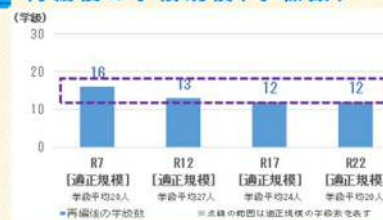
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



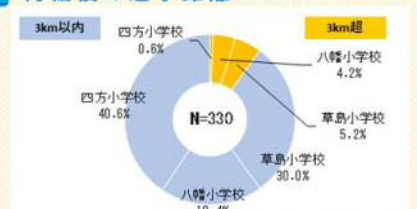
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数55年)	○	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数44年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数17年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模となる。
- 【必要教室数】教室数は不足しているため、増築等の対応が必要となる。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。市街化調整区域内での建築行為、建築を伴う敷地拡張、用途変更する場合、都計法の許可が必要となる可能性が高い。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。



吳羽地域

呉羽地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 呉羽地域は再編対象校が多い（6小学校中、5小学校が再編対象）
- (2) 再編原案以外の組合せでは、再編対象校と呉羽小との組合せ以外には適正規模とはならないことや再編対象校として残置する学校がある。
- (3) このことから、長期的に小規模ではあるものの一次統合の形態や長期的に大規模ではあるものの最終統合の形態を再編原案とした。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (6校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
呉羽	3	89	3	86	3	94	3	100	3	103	3	98	18	570
長岡	1	23	1	28	1	25	1	29	1	27	1	26	6	158
寒江	1	13	1	15	1	14	1	10	1	13	1	25	6	90
老田	1	28	1	23	1	24	1	25	1	25	1	22	6	147
古沢	1	6	1	9	1	6	1	7	1	8	1	5	4	41
池多	1	9	1	8	1	10	1	6	1	4	1	4	5	41

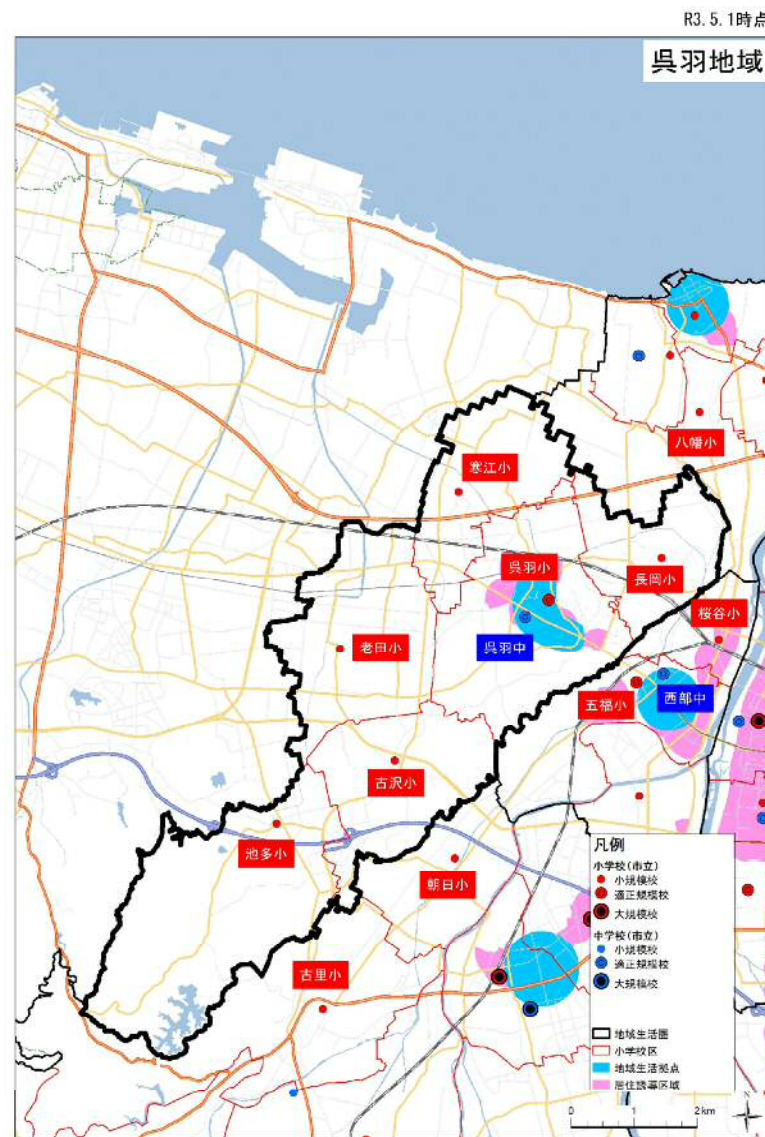
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※古沢小は3・4年生及び5・6年生、池多小は5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
呉羽	5	194	5	182	5	188	15	564

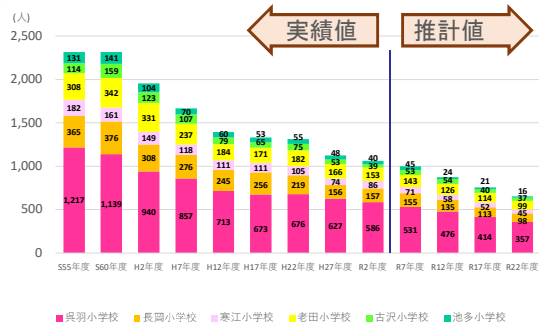
※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

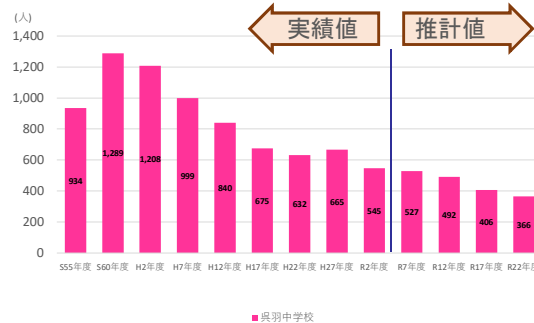
学校位置図



小学校児童数推移



中学校生徒数推移



出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
 令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

呉羽地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：呉羽小学校、長岡小学校、寒江小学校、老田小学校、古沢小学校、池多小学校

中学校：呉羽中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法					
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況		通学 距離		
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22			R7	R12		R17	R22
呉羽	古沢小学校、池多小学校	寒江小学校、老田小学校	呉羽小学校	現 老田小学校	適正 (12)	小 (11)	小 (10)	小 (6)	▲ 5	▲ 4	▲ 3	1	80% 138人	呉羽-1 (1)	一次統合
	長岡小学校			現 呉羽小学校	大 (24)	大 (20)	適正 (18)	適正 (17)	1	5	7	8	6% 9人	呉羽-1 (2)	
	古沢小学校、池多小学校	長岡小学校、老田小学校、 寒江小学校、		現 呉羽小学校	大 (30)	大 (26)	大 (24)	大 (21)	▲ 5	▲ 1	1	4	43% 206人	呉羽-1 (3)	

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 寒江小学校【呉羽中】
児童生徒数：90人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 老田小学校【呉羽中】
児童生徒数：147人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 古沢小学校【呉羽中】
児童生徒数：41人
学級数：4学級(小規模校(複式学級を含む))
- 池多小学校【呉羽中】
児童生徒数：41人
学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))

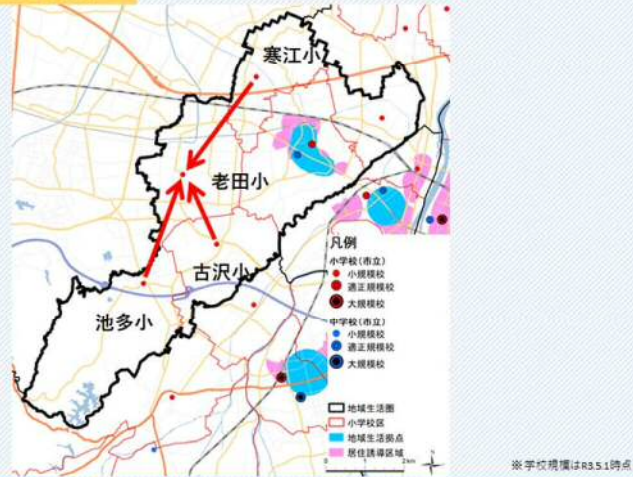
再編対象校との組み合わせを検討する学校

再編先学校

現 老田小学校【呉羽中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは市立小・中学校再編計画の考え方(1) (3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

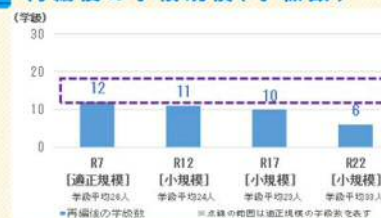
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建設年数39年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建設年数29年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建設年数8年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建設年数24年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

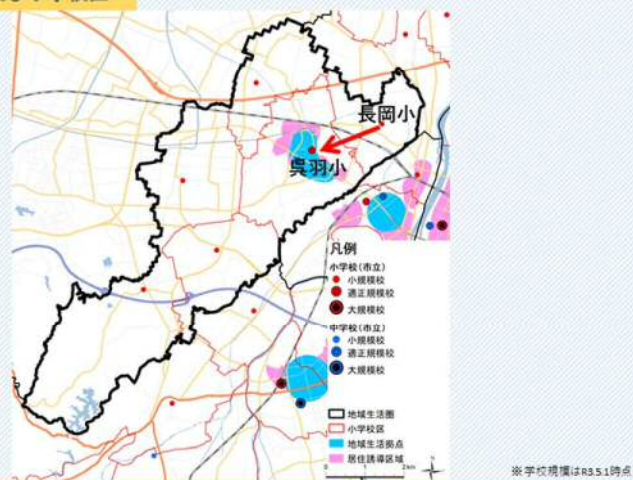
- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】令和7、12、17年は教室数が不足しているが、令和22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。市街化調整区域内での建築行為、建築を伴う敷地拡張、用途変更する場合、都計法の許可が必要となる可能性が高い。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。
- 【その他】最終的には呉羽小学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況



※()内は進学生中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは市立小・中学校再編計画の考え方(1)、(3)及び(4)に基づく
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



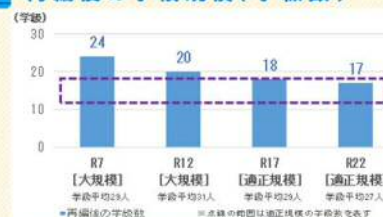
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数39年)	-	C	B	B	B	B
体育館(建築年数55年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
- 【その他】最終的には呉羽小学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 長岡小学校【呉羽中】
児童生徒数：158人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 寒江小学校【呉羽中】
児童生徒数：90人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 老田小学校【呉羽中】
児童生徒数：147人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 古沢小学校【呉羽中】
児童生徒数：41人
学級数：4学級(小規模校(複式学級を含む))
- 池多小学校【呉羽中】
児童生徒数：41人
学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))

再編対象校との組み合わせを検討する学校

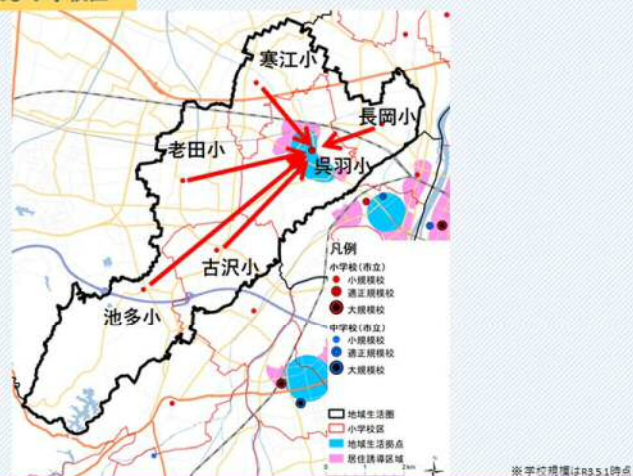
- 呉羽小学校【呉羽中】
児童生徒数：570人
学級数：18学級(適正規模校)

再編先学校

現 呉羽小学校【呉羽中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR35.1時点

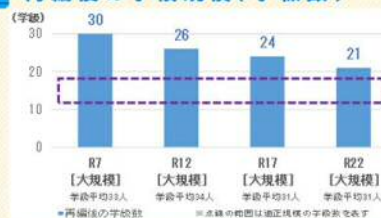
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
中規模：学級数が14学級以上11学級以下
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎 (建築年数)	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎 (建築年数39年)	-	C	B	B	B	B
校舎 (建築年数55年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても大規模校となる。
- 【必要教室数】令和7、12年は教室数は不足しているが、令和17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。



富山西部地域

富山西部地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 富山西部地域の再編対象校は神明小である。
- (2) 再編原案では適正規模を確保できる。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (3校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
桜谷	2	54	1	31	1	34	1	31	1	36	1	31	7	217
五福	2	65	2	57	2	59	2	68	2	68	2	70	12	387
神明	1	27	1	25	1	36	1	33	1	22	1	27	6	170

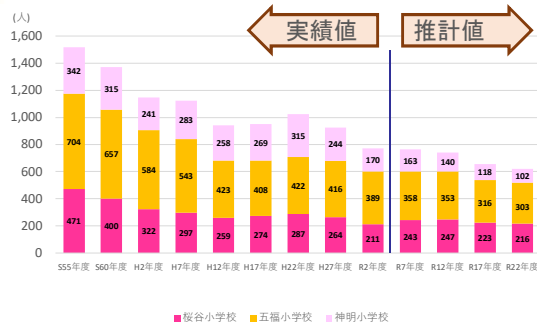
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
西部	3	118	4	130	3	119	10	367

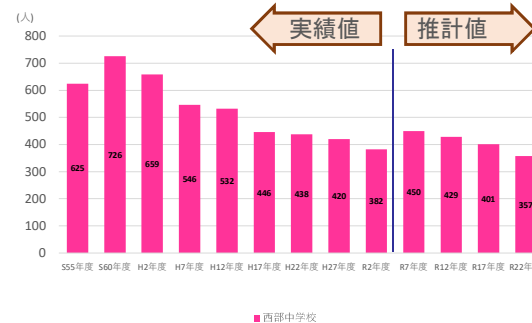
※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

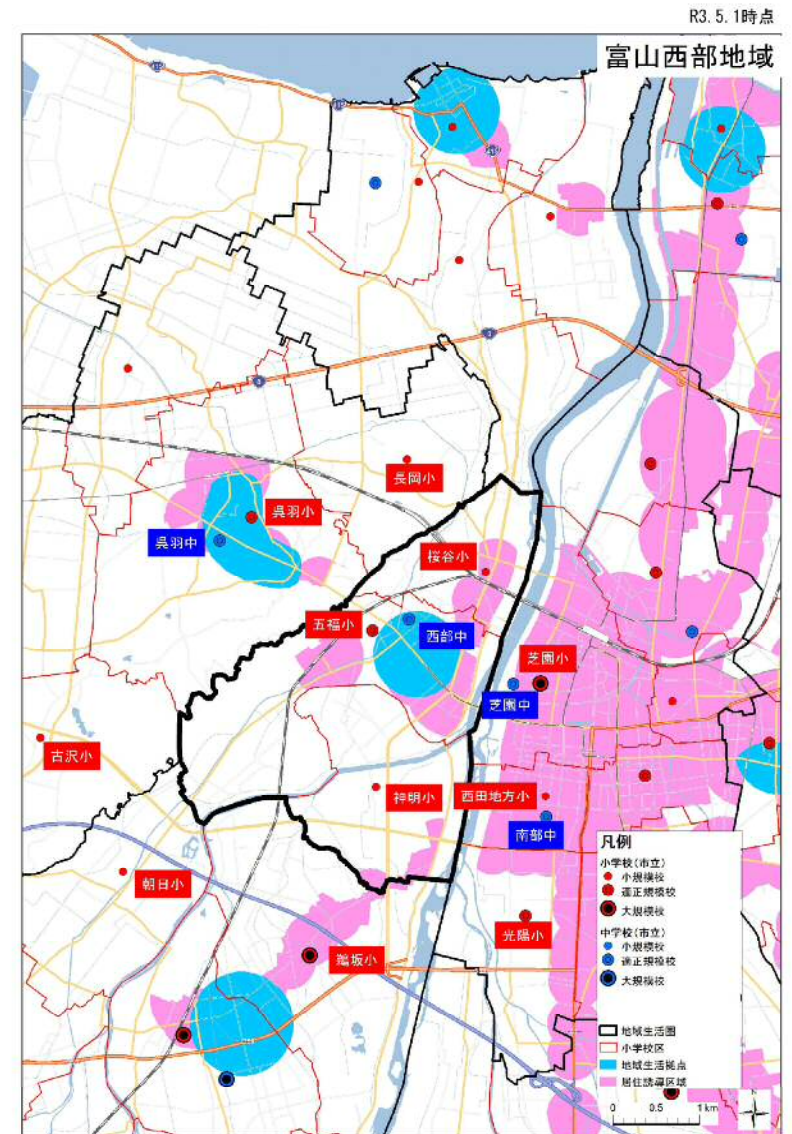


中学校生徒数推移



出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

学校位置図



富山西部地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》
 小学校：桜谷小学校、五福小学校、神明小学校
 中学校：西部中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ						再編原案	手法				
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況			通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22	R7				R12	R17	R22
富山 西部	神明小学校		五福小学校	現 五福小学校	適正 (18)	適正 (18)	適正 (14)	適正 (13)	1	1	5	6	55% 92人	富山西部-1	統合

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 神明小学校〔西部中〕
児童生徒数：170人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 五福小学校〔西部中〕
児童生徒数：387人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

現 五福小学校〔西部中〕

※〔 〕内は通学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数6年)	-	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数6年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数6年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)付近に位置する。



富山東部地域

富山東部地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 富山東部地域の再編対象校は太田小である。
- (2) 再編原案では適正規模を確保できる。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (8校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
東部	3	99	2	65	3	75	3	80	2	69	3	87	16	475
新庄	3	89	3	101	4	128	3	86	3	92	3	106	19	602
新庄北	3	86	3	95	3	92	3	98	3	85	3	101	18	557
藤ノ木	5	178	6	191	5	171	5	185	5	176	5	175	31	1076
広田	2	50	2	47	2	56	2	49	2	51	2	44	12	297
山室	3	87	3	98	3	97	3	74	3	93	3	83	18	532
山室中部	3	88	3	91	3	92	3	89	3	82	3	101	18	543
太田	1	36	1	28	1	32	1	34	1	34	1	34	6	198

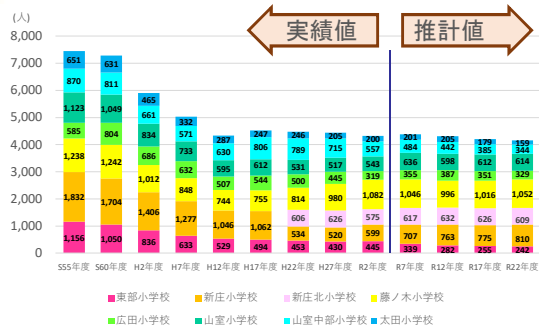
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
東部	3	103	3	109	3	85	9	297
新庄	6	232	6	228	5	198	17	658
山室	6	187	6	203	5	196	17	586
藤ノ木	5	167	4	144	4	159	13	470

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

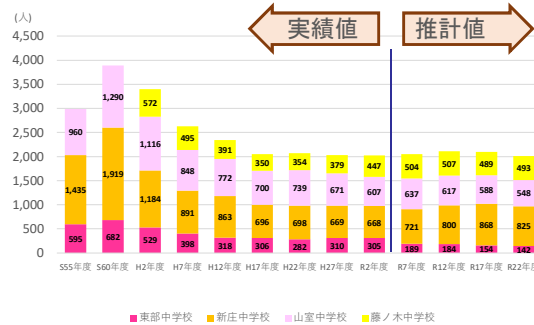
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

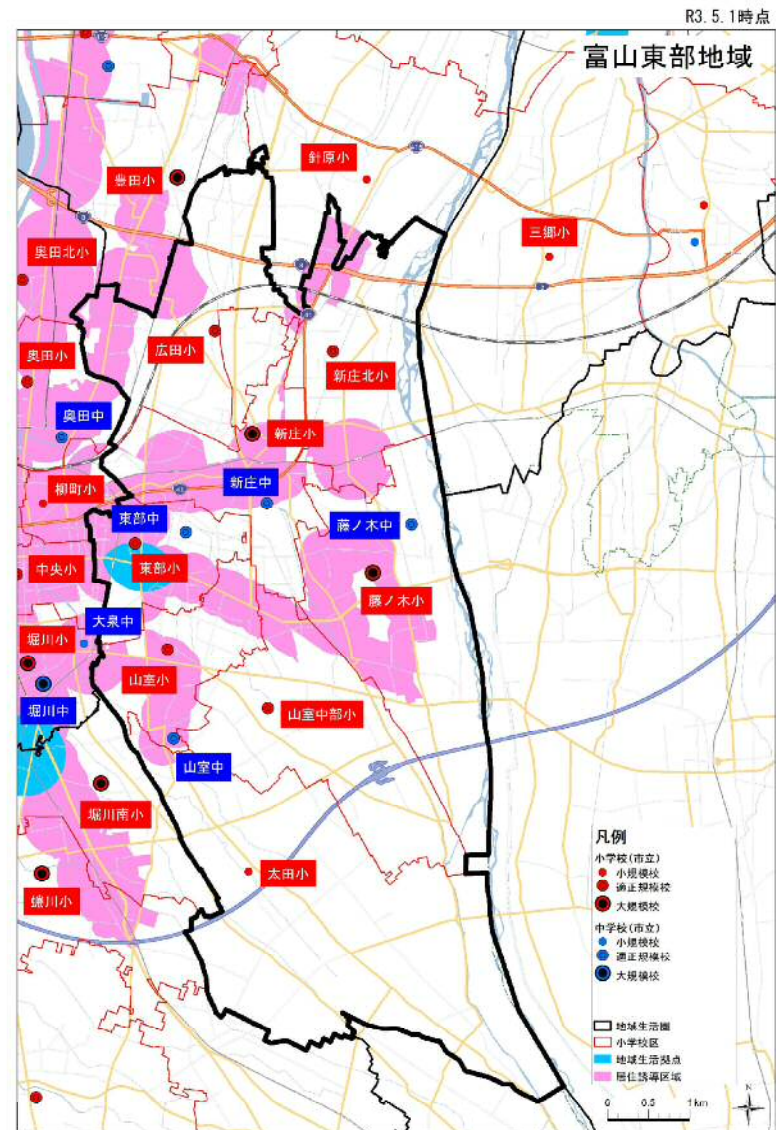


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



富山東部地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：東部小学校、新庄小学校、新庄北小学校、藤ノ木小学校、広田小学校、山室小学校、山室中部小学校、**太田小学校**

中学校：東部中学校、新庄中学校、山室中学校、藤ノ木中学校

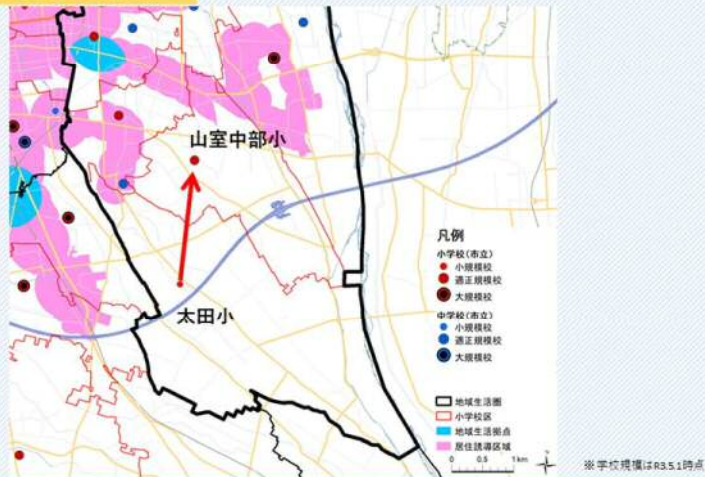
地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法						
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況	通学 距離				
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22			R7		R12	R17	R22	R3
富山 東部	太田小学校		山室中部小学校	現 山室中部小学校	大 (21)	大 (20)	適正 (18)	適正 (18)	1	2	4	4	48%	88人	富山東部-1	統合

再編を検討する学校の概況



※〔 〕内は通学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数45年)	-	C	C	C	C	C
校舎2 (建築年数17年)	-	A	B	A	A	A
体育館 (建築年数10年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホト変換率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】校舎の一部で老朽化が進行している。
- 【周辺状況】地域生活拠点内及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。



大沢野・細入地域

大沢野地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 大沢野地域の再編対象校は船峠小である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (3校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
大沢野	2	60	2	65	3	75	3	76	3	103	3	85	16	464
大久保	3	77	3	80	2	69	2	66	2	70	2	74	14	436
船峠	1	5	8	1	5	1	9	1	9	1	9	5	45	

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

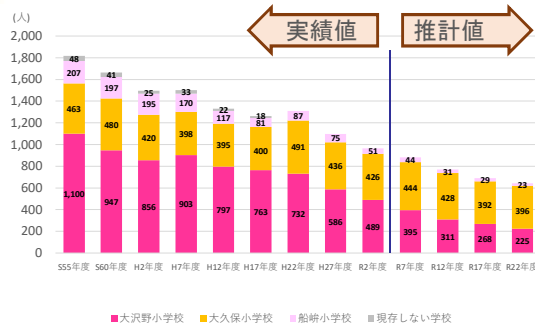
※船峠小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
大沢野	4	160	4	157	4	159	12	476

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

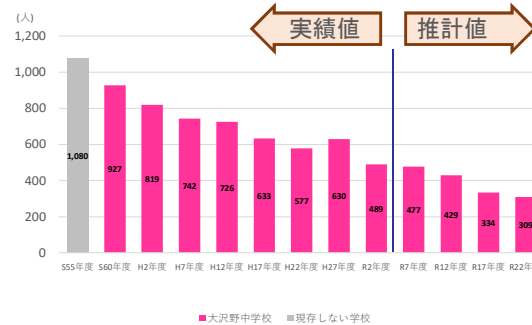
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

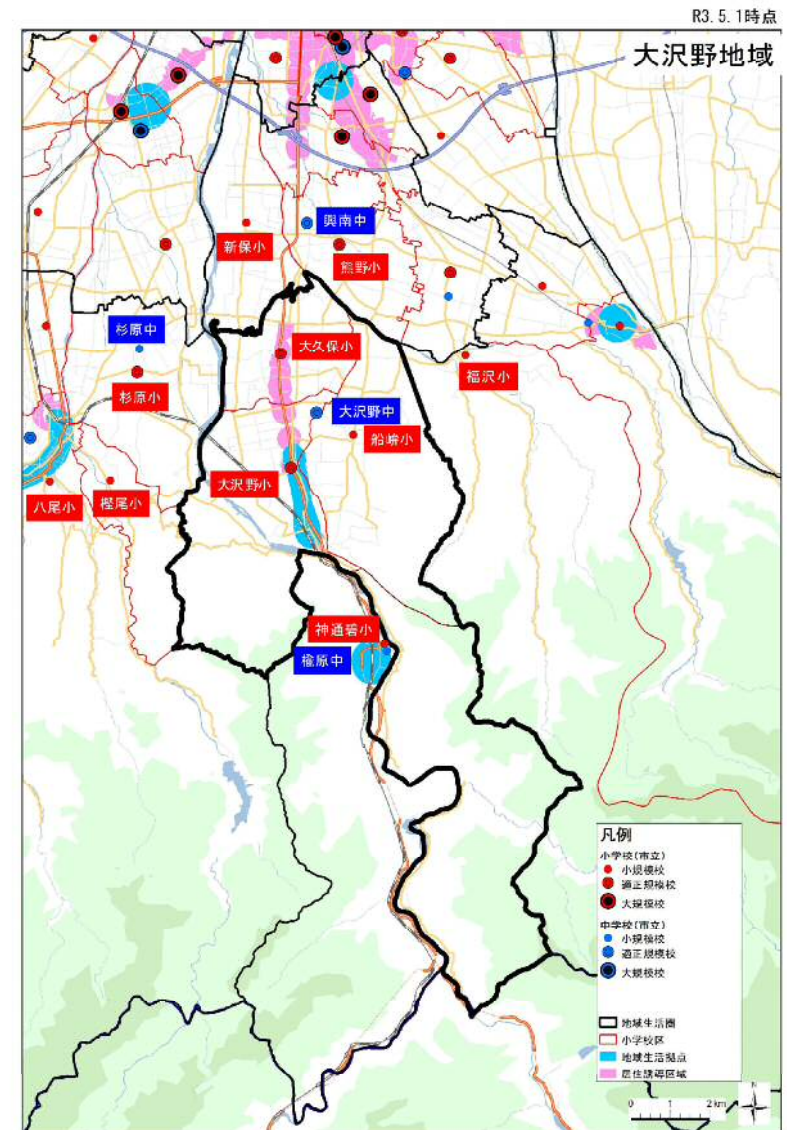


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



細入地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 細入地域の再編対象校は神通碧小・榆原中である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。
- (3) 細入地域は再編先学校がないことから、大沢野地域との再編を検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
神通碧	1	12	4	6	1	10	1	13	1	11	5	56		

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

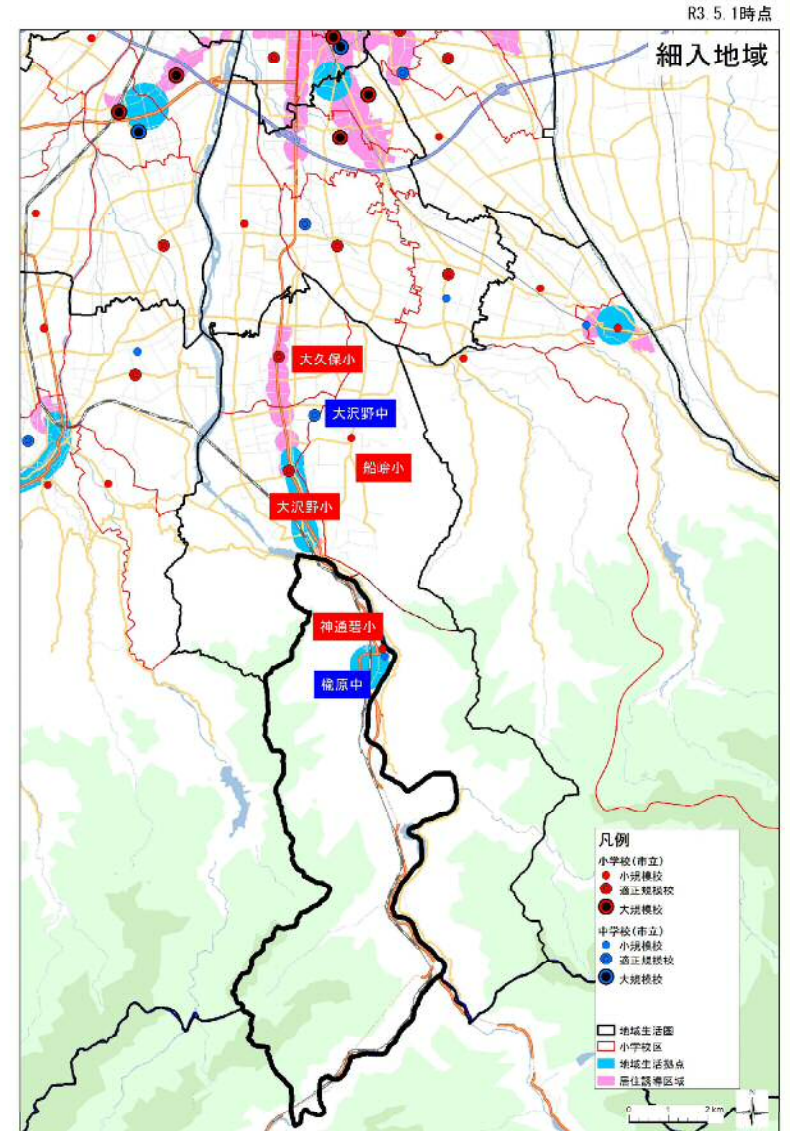
※神通碧小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
榆原	1	8	1	5	1	16	3	29

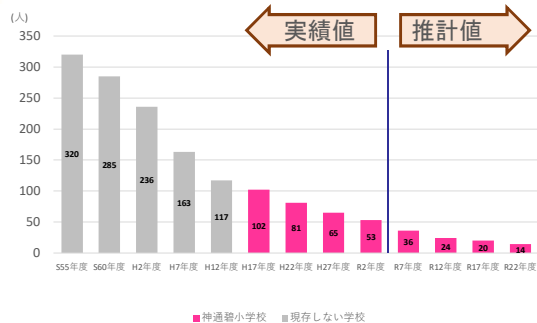
※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

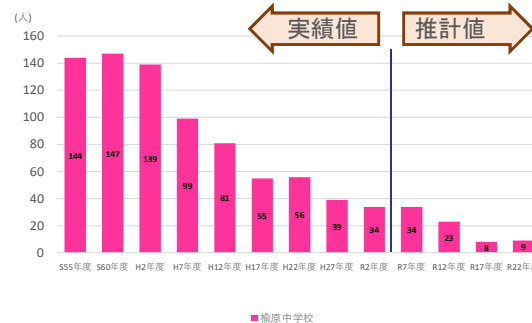
学校位置図



小学校児童数推移



中学校生徒数推移



出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

大沢野・細入地域小・中学校再編原案リスト



《大沢野地域内の学校》
 小学校：大沢野小学校、大久保小学校、船峠小学校
 中学校：大沢野中学校

《細入地域内の学校》
 小学校：神通碧小学校
 中学校：榆原中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法					
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況		通学 距離		
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22			R7	R12		R17	R22
大沢野	船峠小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	7	10	11	11	58%	21人	統合
	船峠小学校		大久保小学校	現 大久保小学校	適正 (18)	適正 (14)	適正 (12)	適正 (12)	▲4	0	2	2	97%	35人	
大沢野・ 細入	神通碧小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (15)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	8	10	11	11	93%	51人	統合
	船峠小学校、神通碧小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (17)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	6	10	11	11	79%	72人	
		榆原中学校	大沢野中学校	現 大沢野中学校	適正 (14)	適正 (13)	適正 (9)	適正 (9)	8	9	13	13	100%	27人	

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 船崎小学校【大沢野中】
児童生徒数：45人
学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 大沢野小学校【大沢野中】
児童生徒数：464人
学級数：16学級(適正規模校)

再編先学校

現 大沢野小学校【大沢野中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



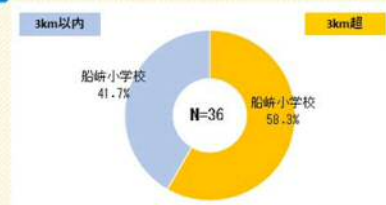
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建築年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建築年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建築年数28年)	-	B	B	C	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見え)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 船崎小学校【大沢野中】
児童生徒数：45人
学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 大久保小学校【大沢野中】
児童生徒数：436人
学級数：14学級(適正規模校)

再編先学校

現 大久保小学校【大沢野中】

※()内は進学生中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数62年)	○	B	C	B	B	B
校舎2 (建築年数56年)	○	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数48年)	-	C	C	C	C	C
校舎4 (建築年数43年)	-	C	C	C	C	C
校舎5 (建築年数42年)	-	C	C	C	C	C
体育館 (建築年数36年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】令和7年は教室数は不足しているが、令和12、17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】老朽化が進行している。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。

大沢野・細入地域 統合（地域横断）

再編を検討する学校の概況



※()内は通学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



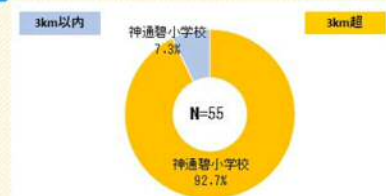
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変換率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1 (建築年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建築年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建築年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建築年数28年)	-	B	B	C	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を上回っている
※保育教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変換率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。

大沢野・細入地域 統合（地域横断）

再編を検討する学校の概況



※（ ）内は通学先中学校
※（ ）内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方（1）、（3）及び（4）」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（富山市の教育）」

該当する地域生活圏及び小学校区



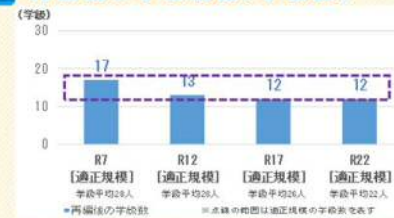
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学校平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建設年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建設年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建設年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建設年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建設年数28年)	-	B	B	C	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の見込み）
D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)
※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）内に位置する。

大沢野・細入地域 統合（地域横断）

再編を検討する学校の概況



※()内は適先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



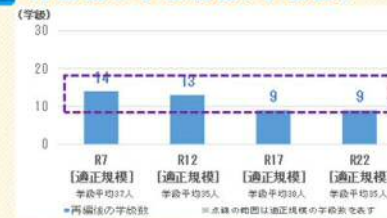
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が9学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が9学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数40年)	-	B	B	B	B	B
体育館(建築年数39年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づき推計した児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第2次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】再編後の生徒数に対して、教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正計画)付近に位置する。



大山地域

大山地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 大山地域の再編対象校は上滝小、福沢小、小見小である。
- (2) いずれの再編原案においても、長期的には小規模となるが、月岡小と隣接する再編対象校は福沢小のみであり、上滝小及び小見小は大庄小校区を越境することから同一地域生活圏内での再編を検討した。
- (3) 同一地域生活圏内に中学校が一つであることから、上滝中学校への小学校の併設についても検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

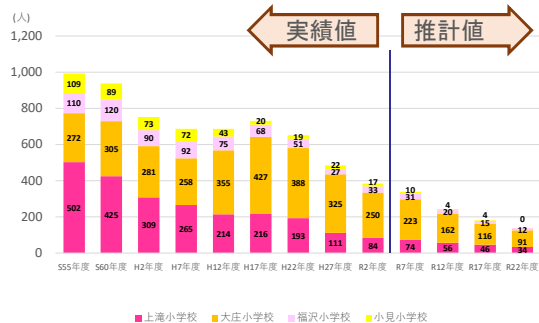
小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
上滝	1	15	1	9	1	13	1	21	1	15	1	16	6	89
大庄	2	37	1	34	2	48	2	37	1	29	2	45	10	230
福沢		4	1	2		5	1	6		8	1	7	3	32
小見		1	1	2		2	1	2		3	1	3	3	13

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※福沢小及び小見小は1・2年生、3・4年生及び5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
上滝	2	70	2	65	2	79	6	214

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。
 出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

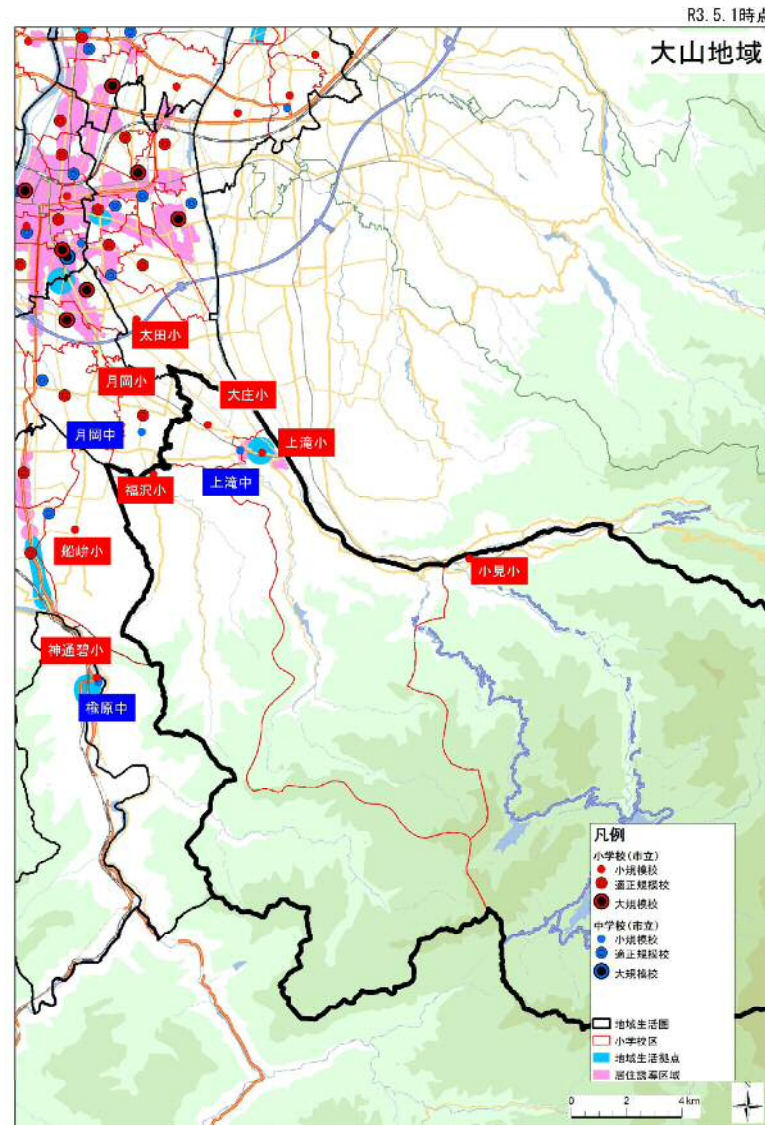


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
 令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



大山地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：上滝小学校、大庄小学校、福沢小学校、小見小学校

中学校：上滝中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法						
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)						再編先学校の教室充足状況		通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22			R7	R12		R17	R22	R3
大山	小見小学校	上滝小学校		現 上滝小学校	小 (6)	小 (6)	小 (6)	小 (6)	4	4	4	4	92%	12人	大山-1 (1)	一次統合
	福沢小学校		大庄小学校	現 大庄小学校	適正 (12)	小 (7)	小 (6)	小 (6)	0	5	6	6	87%	27人	大山-1 (2)	
	福沢小学校、小見小学校	上滝小学校	大庄小学校	上滝中学校併設小学校	適正 (12)	小 (10)	小 (6)	小 (6)	-	-	-	-	17%	61人	大山-1 (3)	最終統合
	福沢小学校、小見小学校	上滝小学校	大庄小学校	現 大庄小学校	適正 (12)	小 (10)	小 (6)	小 (6)	0	2	6	6	36%	48人	大山-2	統合

再編を検討する学校の概況



※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方(1)」、「(3)」及び「(4)」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



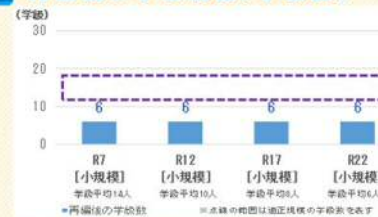
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には3階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
- 【その他】最終的には上滝中学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況



※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規程: 学級数が12学級以上18学級以下
 大規模: 学級数が19学級以上
 小規模: 学級数が11学級以下
 ※コーホート変換率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建設年数35年)	○	B	B	A	A	A
校舎2 (建設年数17年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建設年数34年)	-	B	B	B	B	B

A: 概ね良好
 B: 部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C: 広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
 D: 早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足: 再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
 不足: 再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数: 普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変換率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規程校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農用地域からの除外が必要となる可能性がある。
- 【その他】最終的には上滝中学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 上滝小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：89人
 - 学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 福沢小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：32人
 - 学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))
- 小見小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：13人
 - 学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 大庄小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：230人
 - 学級数：10学級(小規模校)

再編先学校

現 上滝中学校併設小学校 [上滝中]

※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



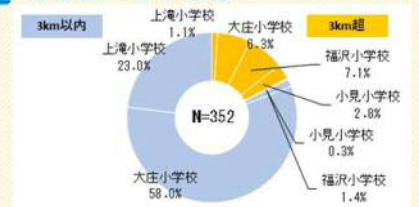
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変換率法に基づく推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第2次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。
- 【その他】上滝中学校は令和3年度に校舎が、令和6年度に体育館が完成する予定である。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 上滝小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：89人
 - 学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 福沢小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：32人
 - 学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))
- 小見小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：13人
 - 学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 大庄小学校 [上滝中]
 - 児童生徒数：230人
 - 学級数：10学級(小規模校)

再編先学校

現 大庄小学校 [上滝中]

※()内は通学生中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3)及び(4)に基づき
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤文字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建設年数35年)	○	B	B	A	A	A
校舎2 (建設年数17年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建設年数34年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っていない
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。



八尾・山田地域

八尾地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 八尾地域の再編対象校は檜尾小である。
- (2) 八尾地域統合中学校が令和4年4月に開校する予定であり、中学校区が一つとなることから、檜尾小と八尾小もしくは杉原小との一次統合を検討した。
- (3) 隣接校との再編では長期的に小規模となることから、八尾地域4小学校を再編し、八尾地域統合中学校に小学校を併設することを検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
八尾	2	50	2	40	2	44	2	44	1	37	2	54	11	269
杉原	2	52	2	36	2	51	2	50	2	77	2	63	12	329
保内	1	27	1	29	2	38	1	27	1	17	1	32	7	170
檜尾	1	5	1	6	5	1	3	4	1	5	4	28	4	28

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

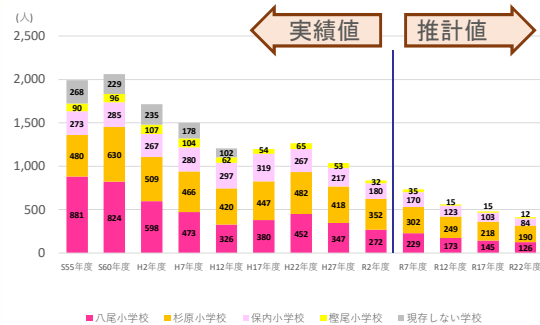
※檜尾小は3・4年生及び5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (2校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
八尾	3	101	3	90	3	94	9	285
杉原	2	60	2	49	2	60	6	169

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

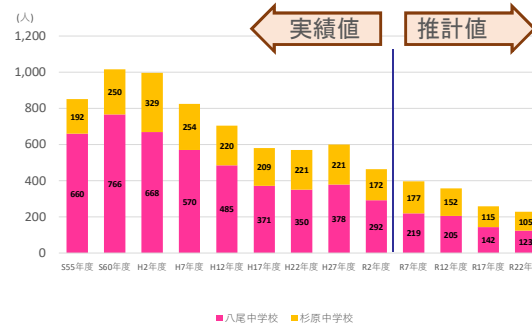
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

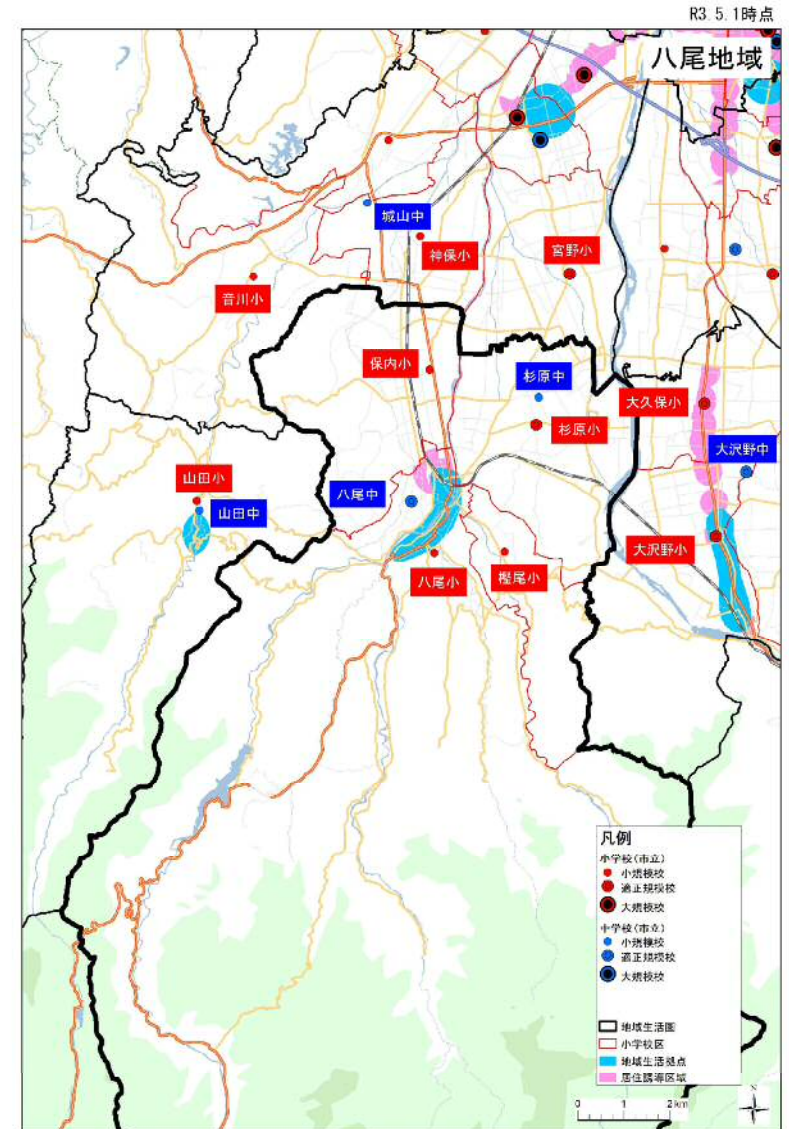


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



山田地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 山田地域の再編対象校は山田小・山田中である。
- (2) 複式学級を解消するため一次統合を検討し、その後、八尾地域の各学校との最終統合を検討した。
- (3) 山田地域は再編先学校がないことから、隣接校が再編対象校ではない八尾地域との再編を検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数		
山田	1	12	4	4	1	9	1	11	1	10	1	9	5	55

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

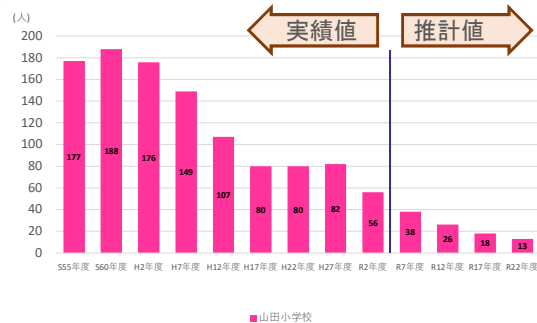
※山田小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数		
山田	1	13	1	9	1	12	3	34

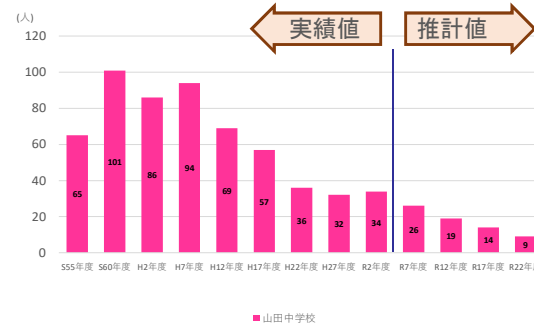
※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

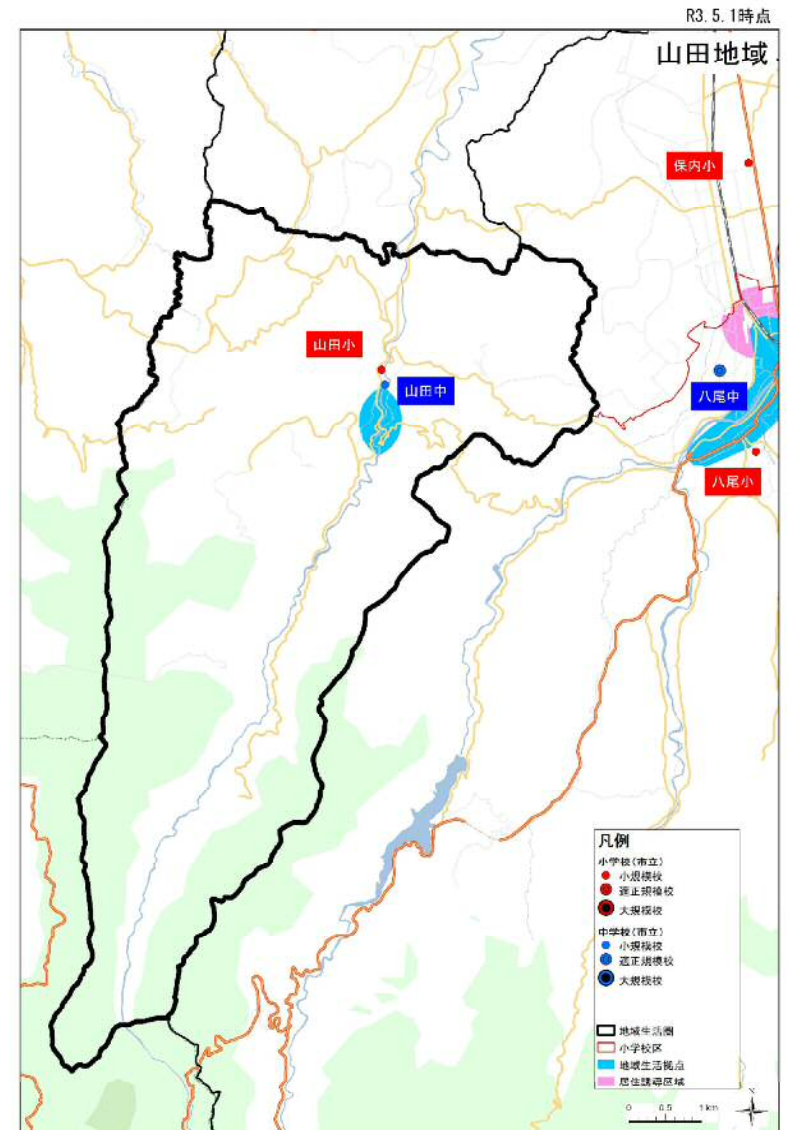


中学校生徒数推移



出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

学校位置図



八尾・山田地域小・中学校再編原案リスト



《八尾地域内の学校》

小学校:八尾小学校、杉原小学校、保内小学校、**櫻尾小学校**
中学校:八尾中学校、杉原中学校

《山田地域内の学校》

小学校:**山田小学校**
中学校:**山田中学校**

地域生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ							再編原案	手法		
	再編対象校 (複式学級がある学校) (全学年単学級の学校)	再編対象校との組み合わせを検討する学校	再編先学校	学校規模(学級数)				再編先学校の教室充足状況					通学距離	
				R7	R12	R17	R22	R7	R12	R17				R22
八尾	櫻尾小学校	八尾小学校	現 八尾小学校	小(11)	小(7)	小(6)	小(6)	6	10	11	11	46% 13人	八尾-1(1)①	一次統合
	櫻尾小学校	杉原小学校	現 杉原小学校	適正(12)	小(11)	小(11)	小(6)	5	6	6	11	93% 26人	八尾-1(1)②	一次統合
	櫻尾小学校	八尾小学校、杉原小学校、保内小学校	八尾地域統合中学校併設小学校	大(24)	大(19)	適正(18)	適正(13)	-	-	-	-	33% 254人	八尾-1(2)	最終統合
八尾・山田	櫻尾小学校、山田小学校	八尾小学校	現 八尾小学校	小(11)	小(7)	小(6)	小(6)	6	10	11	11	82% 68人	八尾・山田-1(1)	一次統合
	櫻尾小学校、山田小学校	八尾小学校、杉原小学校、保内小学校	八尾地域統合中学校併設小学校	大(25)	大(19)	適正(18)	適正(14)	-	-	-	-	37% 309人	八尾・山田-1(2)	最終統合
	山田中学校	八尾地域統合中学校	八尾地域統合中学校	適正(12)	適正(11)	適正(9)	小(6)	4	5	7	10	100% 33人	八尾・山田-2	統合

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 榎尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：28人
学級数：4学級（小規模校（複式学級を含む））



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 八尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：269人
学級数：11学級（小規模校）

再編先学校

現 八尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】

※（ ）内は進学先中学校
※（ ）内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方（1）」（1）、「（3）」及び「（4）」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改修済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎 (建築年数29年)	-	B	B	B	B	B
体育館 (建築年数27年)	-	D	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の見込みあり）
D：早急に対処する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。
- 【その他】最終的には八尾地域統合中学校への集約を検討する。

八尾地域

一次統合

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 檜尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：28人
学級数：4学級（小規模校（複式学級を含む））



再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 杉原小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：329人
学級数：12学級（適正規模校）

再編先学校

現 杉原小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】

※（ ）内は進学先中学校
※（ ）内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方（1）」（1）、「（3）」及び「（4）」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（富士市の教育）

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富士市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数25年)	-	C	B	C	B	B
校舎2 (建築年数14年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数22年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の見込み）
D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富士市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っていない。
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富士市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

八尾地域

最終統合

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 櫻尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：28人
学級数：4学級（小規模校（複式学級を含む））



再編対象校との組み合わせを検討する学校

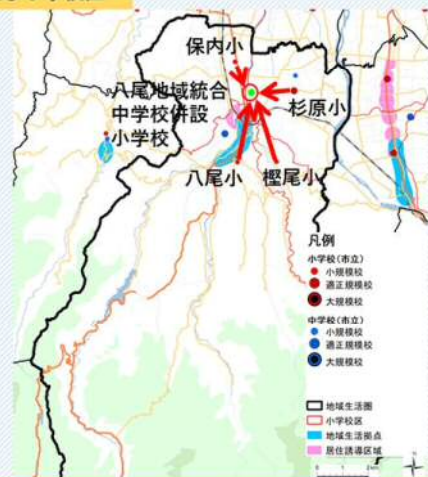
- 八尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：269人
学級数：11学級（小規模校）
- 保内小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：170人
学級数：7学級（小規模校）
- 杉原小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：329人
学級数：12学級（適正規模校）

再編先学校

八尾地域統合中学校併設小学校【八尾地域統合中】

※〔 〕内は通学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは市立小・中学校再編計画の考え方の(1)・(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

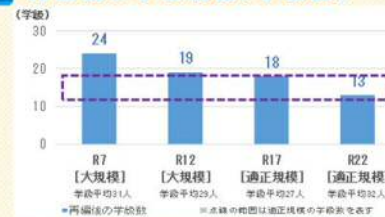
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



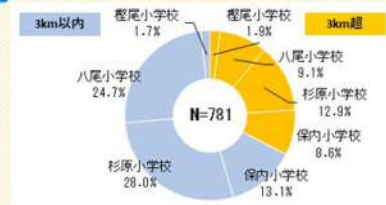
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造成	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の見込み）
D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。農用地域からの除外が必要となる可能性がある。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。

再編を検討する学校の概況



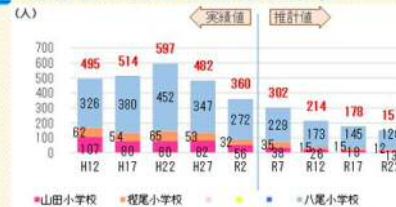
※（ ）内は進学先中学校
 ※（ ）内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」（1）、（3）及び（4）に基づき
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（富士市の教育）」

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤文字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富士市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変換率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改築済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎（建築年数29年）	-	B	B	B	B	B
体育館（建築年数27年）	-	D	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の見込み）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富士市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っていない。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変換率法に基づく推計生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富士市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。
- 【その他】最終的には八尾地域統合中学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 櫻尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】 ● 山田小学校【山田中】
児童生徒数：28人 児童生徒数：55人
学級数：4学級（小規模校（複式学級を含む）） 学級数：5学級（小規模校（複式学級を含む））

再編対象校との組み合わせを検討する学校

- 八尾小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】 ● 保内小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：269人 児童生徒数：170人
学級数：11学級（小規模校） 学級数：7学級（小規模校）
- 杉原小学校【八尾地域統合中（令和4年4月～）】
児童生徒数：329人
学級数：12学級（適正規校）

再編先学校

八尾地域統合中学校併設小学校【八尾地域統合中】

※〔 〕内は通学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（富士市の教育）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

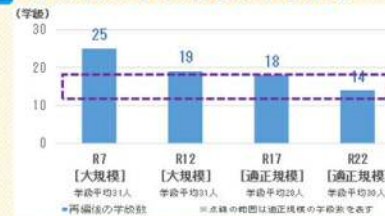
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富士市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規校：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の恐れ）
D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富士市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

-

※富士市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。

再編を検討する学校の概況



※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1) (3) 及び(4)に基づき
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（富士市の教育）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

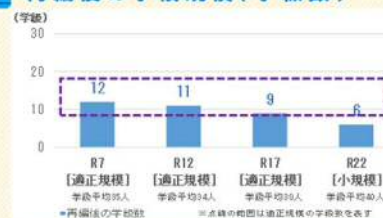
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富士市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変換法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が9学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が9学級以下
 ※コーホート変換法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A: 概ね良好
 B: 部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C: 広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の恐れ）
 D: 早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富士市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っていない
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変換法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

※富士市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17年は適正規模校となるが、その後令和22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。



婦中地域

婦中地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 婦中地域の再編対象校は朝日小・古里小・音川小である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。
- (3) 古里小・音川小においては、既存校を活用した場合、教室不足（要増築）となる。また、同一地域生活圏内には中学校が2つあるものの、当該小学校の中学校の進学先は城山中学校であることから、城山中学校に小学校を併設する。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (7校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
速星	3	97	4	110	3	101	4	124	3	121	4	139	21	692
鶴坂	4	108	4	137	4	132	4	131	4	145	5	170	25	823
朝日	1	10	1	16	1	12	1	12	8	1	3	5	61	
宮野	2	60	2	55	2	55	2	47	2	48	2	47	12	312
古里	1	27	1	31	1	32	1	38	1	33	1	29	6	190
音川	1	9	1	13	1	8	1	12	1	16	1	13	6	71
神保	2	36	2	40	2	43	2	41	2	52	1	34	11	246

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

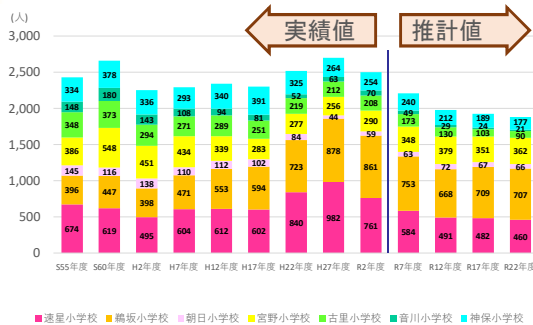
※朝日小は5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (2校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
速星	9	330	9	333	9	348	27	1011
城山	3	94	2	73	3	93	8	260

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

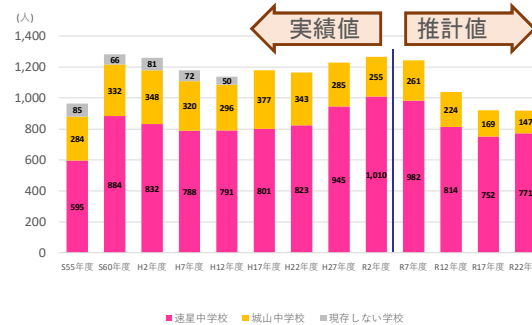
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

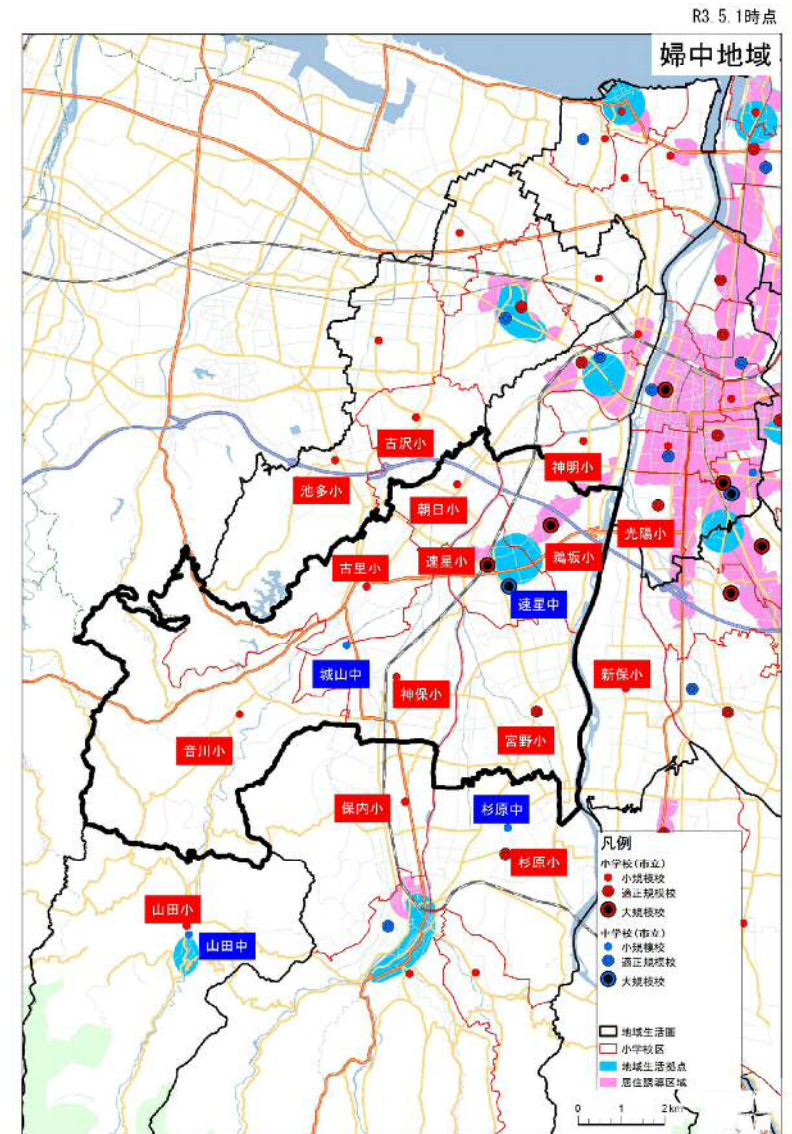


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



婦中地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：速星小学校、鶴坂小学校、朝日小学校、宮野小学校、古里小学校、音川小学校、神保小学校

中学校：速星中学校、城山中学校

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ					再編原案	手法				
	再編対象校 (複式学級がある学校) (全学年単学級の学校)	再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況			通学 距離			
				R7	R12	R17	R22	R7				R12	R17	R22
婦中	朝日小学校	速星小学校	現 速星小学校	大 (21)	大 (19)	適正 (18)	適正 (18)	0	2	3	3	57%	34人	統合
	古里小学校、音川小学校	神保小学校	城山中学校併設小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	-	-	-	-	15%	75人	
	古里小学校、音川小学校	神保小学校	現 神保小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 5	▲ 2	▲ 1	▲ 1	60%	158人	

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 朝日小学校【速星中】
児童生徒数：61人
学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

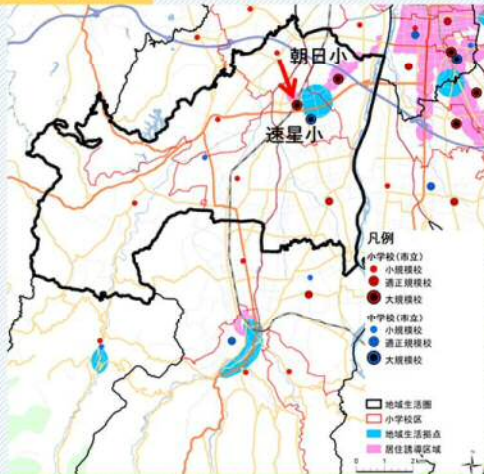
- 速星小学校【速星中】
児童生徒数：692人
学級数：21学級(大規模校)

再編先学校

現 速星小学校【速星中】

※()内は速星中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富士市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



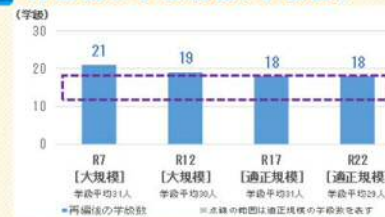
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富士市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



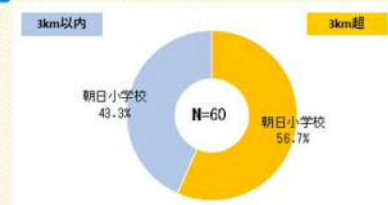
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数より学級数を算出
 ※学校平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数12年)	-	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数7年)	-	A	A	A	A	A
校舎3 (建築年数2年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数30年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富士市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を下回っている
 不足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を上回っている
 ※保育教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変化率法に基づく推計児童生徒数より学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富士市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 古里小学校【城山中】
児童生徒数：190人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 音川小学校【城山中】
児童生徒数：71人
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

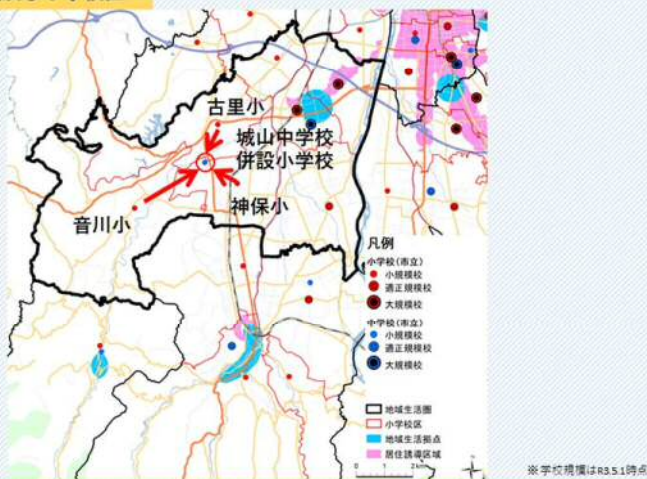
- 神保小学校【城山中】
児童生徒数：246人
学級数：11学級(小規模校)

再編先学校

現 城山中学校併設小学校【城山中】

※()内は進学先中学校
※()内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方(1)」、「(3)」及び「(4)」に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

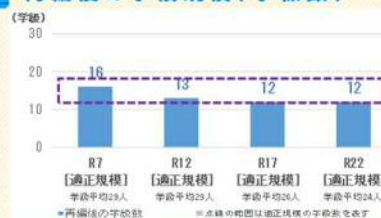
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改築済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
-						
-						
-						
-						
-						

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の恐れ)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づく通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変換率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第2次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況



※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」(1)、(3)及び(4)に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を上回っている
不足：再編後の学級数が保育教室数(必要教室数)を下回っている
※保育教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホト変換率法に基づき推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

校舎	大規模改修済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎(建築年数35年)	○	A	C	A	A	A
体育館(建築年数38年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は不足しているため、増築等の対応が必要となる。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農用地域からの除外が必要となる可能性がある。